

建築と社會

昭和24年3月19日第3種郵便物認可 昭和27年12月25日印刷 昭和28年1月1日發行

The Architectural Association of Japan

記事欄

- 新春所感……………竹腰 健造…… 1
建築界の過去と將來……………淺沼雅之吉…… 2
1953年の建材界を思ふ……………伊藤憲太郎…… 3
構造問題1952～1953年……………鷺尾 健三…… 5
構造1952～1953……………仲 潔…… 8
53年度の建築教育に望む……………中野順次郎……11
點 煙 臺
社會人として建築界に要求するもの……………鈴木淳子……13
社會人としての建築家に望むこと……………中井あい……15
関西建材會の歩み……………関西建材會……16
私たちの建築史(1)……………林野 全孝……18
會 務…………………………20

日本建築協會

Vol. 34
1953

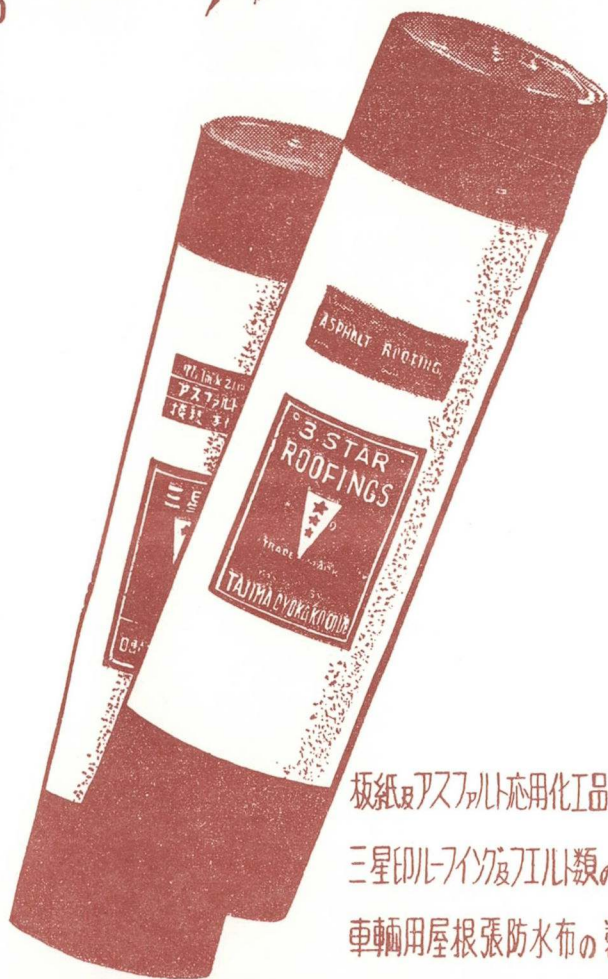
1

田島応用の

三星印



ルーフィング



● 未だアメリカ品に劣る處もないとは言へませんがS.P.BとJ.L.Cに当社品を数十万本（本21）納入してまだ一度もクレームの無いことは世界的水準に達してゐることの証據です（登録商標・専売品）殊に防水工事には、**ギルソンド石綿ルーフィング**及**アスベストフリット**をアメリカ品にも遜色のないものと自負して御薦めします。

板紙・アスファルト応用化工品の製造
三星印ルーフィング及工口類の製造
車輦用屋根張防水布の製造

三星印アスファルトタイル製造元
田島応用化工株式會社

東京・足立区小台 TEL.王子(81) 5171~5175 夜間代表 5171
大阪・西区京町堀上通 TEL.土佐堀(44) 0809・0810・1773

会 告

建 材 審 査 證 明 書 発 行 の 件

予て申出中のウォルトンにつき審査の結果下記の通り証明書を発行した。

昭和27年度第6号優良証明書写

1. 品 名 ウォルトン (レチンエマルジョン塗料)

1. 製品社名 東亜ペイント株式会社

昭和27年9月12日提出された資料につき本会建材審査委員会に於て審査の結果別記特徴により優良と認める。

昭和27年12月25日

社団法人 日本建築協会会長 竹 腰 健 造 建材審査委員長 置 塩 章

特 徴

1. 水で稀めて使用するが在来の水性ペイントに比べ塗り易くて乾燥も早い。
2. 主材料は難燃性であるので火気に対して安全である。
3. 塗膜は無臭である。
4. 耐湿性、耐薬品性が強いので漆喰又はモルタル面の充分な乾燥を持たずに塗装が出来、しかも隠蔽力が大きいので塗面を水又は石鹼水で洗える。

以 上

午 餐 会

(尾崎久助氏、岡橋作太郎氏、白石登喜男氏帰朝歓迎)

謹而 新年の御祝詞を申述べ各位益々御多幸を祈ります。新年午餐会を下記の通り開催いたします。

新年の御挨拶交換旁々、旧臘夫々欧米を視察帰朝されました、日建設計工務社長尾崎久助氏、同設計部長岡橋作太郎氏、三和銀行技師長白石登喜男氏の歓迎会を兼ねて行います何卒奮つて御参加下さい。

1. 時 1月14日(水) 11時30分集合

1. 所 中之島新大阪ホテル三階

1. 会 費 600円

1. 締 切 13日迄到着する様申込の事

申込後欠席の場合でも準備都合上会費の御負担願います。

中 座 観 劇 会

新年の催しとして恒例によつて下記の通り中座の松竹新喜劇観劇会を開催いたします。何卒御家族御同伴御申込下さい

1. 日 時 1月17日(土) 3時半集合

1. 集 合 所 道頓堀中座1等入口

1. 観 劇 松竹新喜劇夜の部(4時開演)

1. 会 費 会員¥300円同伴者¥350円(1等入場料に充当)前納願います

1. 申込締切 14日までに会費と共に申込願います(会費と引換入場券お渡します)但し予定人員に達したときは期日前でも先着で切ります

◎夕食は御随意のこと

◎入場券渡し済の方は随意御入場のこと

会勢委員長 浅 沼 猪 之 吉

謹 ん て 新 春 の 御 祝 詞 申 上 げ ま す

会員各位の益々御繁栄と御健勝を祈り併せて会員倍加其の他本会の発展に一層の御協力を
お願い致します。

昭和二十八年元旦

社団法人 日 本 建 築 協 会

理 事 会 一 同 事 務 局 一 同

会 告

創立35年記念事業後援申込芳名

前号掲載後御申込を受けました芳名を列記し深甚の謝意を表します。尙未だ御申込洩れの各位に対して、この際応分の御協力を特にお願ひ致します。

昭和27年12月20日

記念事業委員長資金部長 東 畑 謙 三

申込芳名並金額 (申込受付順)

青 盛 建 材 株 式 会 社	殿(広島)	5,000	元 吉 勇 太 郎	殿	1,000
谷 川 政 夫	殿(〃)	500	滝 邦 一	殿	1,000
益 尾 辰 雄	殿	500	浜 口 弘	殿	300
小 崎 修	殿(京都)	1,000	宮 崎 三 之 助	殿	1,000
株式会社 ミ ラ ノ 工 務 店	殿(〃)	10,000	根 岸 坦	殿	300
中 央 建 材 株 式 会 社	殿	3,000	佐 藤 太	殿	1,500
株式会社 広 瀬 清 三 郎 商 店	殿	10,000	鈴 木 一 幸	殿(東京)	1,000
福 島 産 建 工 業 株 式 会 社	殿	5,000	岩 田 勝 巳	殿(中国)	1,000
山 崎 敏 夫	殿	300	株式会社松田平田設計事務所大阪出張所	殿	3,000
鷺 尾 九 郎	殿	1,000	桜 物 産 株 式 会 社 大 阪 支 店	殿	1,000
奥 戸 大 蔵	殿	500	橋 本 政 一	殿	500
中 沢 誠 一 郎	殿	1,000	小野田セメント株式会社大阪支店	殿	10,000
高 村 勝	殿(中国)	1,000	青 木 照 平	殿	10,000
織 本 道 三 郎	殿(東京)	10,000	伊 藤 久 治	殿	10,000
田 口 戊 光	殿	500	本 月 分 計		¥ 90,900

以上 (自11月21日 至12月20日)

ウチノミ

小豆島内海町章 (マーク) 懸賞募集

詳細は本文22頁参照の事

『これからの住宅図集』出版

記念事業の一つとして南海羽衣の一円地に建設展示せし、新住宅28戸並懸賞募集した新時代の住宅設計入選佳作図案20余種をB5版約80頁におさめ優美装な図が出来ました。一は優秀業者27社が競うて設計、実際に建築出品されたもの、一は新時代の理想住宅案として一般に好評を博している。

一部定価 ¥ 200.00 (会員一割引) 送料 ¥32.00

建築講座頒布お知らせ

本会卅五記念として先般来各地で開催しました講習会のテキスト御希望の方にお頒け致します。

内容及び価格 新構法 (湛溜、新興木構造、振動打、ブロック建築、コンクリート等)

材 料 (最近の建築材料の動向等)

住 宅 (住宅の新しい傾向等)

判 174頁 1冊につき送料共 ¥200.00

新刊パンフレット『アスファルト防水とセメント防水工事』

一部定価 ¥60.00 丁¥8.00 但し会員一部 ¥50.00

新刊パンフレット『衛生工事』

一部定価 ¥100.00 丁¥16.00 但会員一部 ¥90.00

以 上

申 込 朝日ビル事務所又は天神橋分室

日 本 建 築 協 会 事 務 局

新春所感

竹 腰 健 造

茲に我国は国家独立後の初めての新春を迎えるのでありますが、我が日本建築協会に於きましても、昨昭和27年の創立満35年と云う記念すべき年を送り、更めて希望に充ちた新発足をなすべき年の新春を迎える事となつたのであります。

我日本建築協会が、其組織を改めて建築界各般の部門に属する人士を網羅するものとし、技術、施工、管工、電気、材料の諸部門を設けて会の活動を開始致しましてより既に3年、其間次第に内容も充実し、各部門夫れ夫れの活動も次第に盛んになりますと共に、部門間お互の連絡、親和も漸次に緊密となり、極めて健全なる発達をなし、国家社会に貢献する処多くなりつつある事は誠に悦ばしい次第であります。

終戦直後の我国の建築界と、七ヶ年を経過した今日の建築界とを比較して見ますと実に隔世の感があります。過去半世紀に亘つて、我國民の勝れた智性と技能とを以て習熟して来た建築各般の技術も、世界大戦の空白と、戦後の混乱のため、一時は殆ど絶望と思わるるまでに潰滅したかの感があつたのでありますが、幸にして最近数年の間に次第に旧に還り、一面に於ては新なる進歩をさえ見せて来たのであります。又都市に於ける建築の盛なる事、住宅復興の急速なる事は世界に冠たるものと考えるのであります。

昨夏、私は、短時日ではありましたが、欧米に旅行し建築の状況を視察して来たのでありますが、我国に於ける程、建築界が股賑を極めて居る国は他に見られないのであります。

戦捷国である英国に於てすら国家資金の使途に極めて厳重なる統制があつて、資金は主として産業方面に向けられ、200 磅即ち邦貨約20万円以上の建築は悉く認可を要する事に規制されて居り、都市に於ける建築は実に寥々たる有様であります。国勢の隆盛を誇る米国に於ても昨年再軍備計画による重要資材の割当制が施行せられて以来、新に計画せられる都市建築は少く、今日建築界を賑わして居るものは殆どそれ以前に計画せられたものであります。其他の諸国に至つては、社会福祉を目的せるアパートの建築又は工場の外は都市に於ける大建築は殆ど皆無と云つても過言ではあるまいと思います。また欧米に於ける此状況に比すれば我国の建築界は最近数年間非常に恵まれた状況にあつたと思われるのであります。或は戦前、我国勢の隆盛であつた時代に於ても建築界が斯くも股賑を見た時期は稀であつただろうと思われま

す。翻つて、我経済界の現状を見ますと、戦時中及び戦後の物資不足の時期はもう過ぎ去りました。其空白時代の不足物資は補給せられ、現在は漸く製産過剰の時期に入りかけて居ります。加之、高賃銀、高物価の結果として輸出の不振を来しつつあります。輸出によらざれば存立が危ぶまれる我国の産業界は次第に困難なる地位に陥つて行くのではないかと危懼せられるのであります。我経済界の盛衰は直接建築界にも影響する処が大であります。今後資金が産業方面に流れて建築方面を潤す余裕が無くなつた来ると、我建築界も過去数年に於けるが如き繁栄を期し難いのではありますまいか。我等は今日より、過去の安易に狎れず、大に警戒せねばならぬと思います。然し我国に於ては戦災によつて失つた建築の面積が、諸外国より多く、且未だ之を補うに足る丈の建築は出来て居りません。住宅問題の如きは、前途路遠しの感があります。又朝鮮問題等による特種な環境に置かれても居ります。此等の点から来年もそこばくの繁栄を期待する事も出来ましようか。然し何れにしても思いを将来に致し、一路技術の向上発展に邁進して建築界の健全

を期すべきであります。

(筆者 日本建築協会会長)



建築界の過去と将来

浅沼猪之吉

鶏鳴東天紅を告げて、ここに昭和28年の新春を迎えた。殊に昨秋宮中に於かせられては、立太子の大礼を行わせられ洵に慶賀に堪えない、邦家の前途彌々光明に満ち、清新の念を以て年頭に臨むものである。終戦後第8年日本有史以来第二次転換ともいべき世紀的洗礼を受けながらも、職域を通じて聊かにても社会に貢献し得たかを回想するとき、生ある喜びを新春の訪れとともに心から感謝する次第である。

我国建設業の発生には二つの経路がある。その一つは遠く古代に遡る、白鳳天平時代の為政者の造営する宮殿をはじめ、信仰、祖先崇拜の対象たる神社仏閣の創建に対する国家総力に端を発し、武家時代の前後よりの分業確立からここに、武家専属の設営業者即ち普請御用となり、これが拡大して神社仏閣を専業とする、宮大工という請負業を生み、やがて明治維新を契機として欧米文化の輸入により完全に独立した企業形態を整えて今日に至った。所謂伝統につながる建設業者である、いま一つは明治維新を劃して永年に亘つて社会に害毒を流していた現在でいう「ボス」当時親分乾分というきずなで結ばれた無頼の集団が、徹底的な爾正のため解散の余儀なきに至り、これらの輩が求めた職域は服装も機具も要しない土方であり、配下を使役して土木工事を請負ひ、膏血をしばつて豪勢な私生活営み、或は半は脅迫を以て工事の入札に参加し談合銭を稼ぐなど、大正末期に至るまで依然社会を毒していたところの所謂「請負師」がそれである。現在一流業者として活躍している建設業者は何れも伝統に生きる前者に属するもので、大阪を本店とする大林組の先々代芳五郎氏が志を立て、東上されたのが明治16年7月、初めて宮城御造営地形工事に従事され、独力大林組を創設されたのが明治25年1月（同社五十年史に拠る）である。竹中工務店の澁島が遠く中世期名古屋を中心とする社寺建築にあり、堂ビル建設を足場として大阪へ進出、連綿今日に至っている。東京に本店を有する清水建設、鹿島建設、大成建設等皆古き伝統により、美しき社風を以て夫々業界に王座を占めている。これら大先輩者に比較するにはあまりにも烏呼がましいことであるが、当社も古く代々奈良近在近郷の神社仏閣の造営、修繕等に精進をつづけつゝ明治25年一般建築請負業者として発足し今日に至ったものである。

当時は未だ同業者間で「談合」「談合取」「縄張」等の悪弊が很強く蔓り、明治20年頃官に於て俠客博徒の輩をして正業に就かしむべく取締を厳にした結果、彼等の大部分は土木建築請負業に転向したため、玉石混淆の請

負業者は雨後の筍の如く激増したが、彼等転向者は目的が官憲の目をかすめる方便に過ぎず、請負工事を消化してゆく手腕も力量もなく、生活のために殺伐な気風と腕力とを武器として濡手で粟の談合取や、旧来の勢力地域一即ち縄張内の他人の工事場で多額の念達金を強要し、肯んぜざれば銃剣等を持出し、終には流血の騒擾に及ぶという言語に絶する跋扈跳梁があつたのであるが、大正末期に至り官憲の厳重なる取締により大凡そ此種の争闘は此頃を以て後を絶つた様である。

然し伝統を誇る請負業者はよくこれらの跋扈を排撃し日本経済更に文化の進展に順応したのであつたが、爾来我国の国力進展と共に国家施設も旺盛となり、民間に於ても昭和30年前後に擡頭した、紡織絹糸等所謂繊維工業の勃興は工場建築時代を現出、大和田紡績、朝日紡績、近江麻糸、日本絹糸、尼崎紡績等幾多の大工事があつた。明治33年清国事変次で日露戦争を経過し大正年代に至り第一次世界大戦の勃発と共に我国の立場を有利に導き経済界に極めて好影響を齎し、国力の増大に伴い業界は空前の活況を呈し、幾多の代表的建築物が築立、絢爛に我世の春を謳歌せしめたが、昭和初期より同八年頃にかけて深刻なる反動期を招来し、業者等しく非況に沈溺したのであつた。其後日支事変より我国は第二次世界戦争の渦中に投じ軍関係の施設繁忙を極めたが、敗戦の結果各界共に惨憺たる状態となつたことはなお脳裡に新なる所である。

わが業界に極めて密接なる関係のある、建設業協会についてはその詳しくは宛然業界の歴史を綴るものであるけれども、それには他に人ありと考ふるのでこゝには記憶のまゝに触れてみる。明治41年大阪土木建築業組合が創立され、其後大正中期全国に土木建築組合が出来て一段と強化、よく悪徳請負業者の駆逐に成功したが。組合員は一致協力し、工事の正確、工期の厳守等を履行し内外の信用もあつたのであつたが、第二次大戦勃発とともにすべてが軍国化し、軍建協力会、海軍施設協力会より戦時建設団となり、組合は無実の存在となつた。終戦と共に戦時統制は自然解消され、更に建設省設置とともに業界団体は劃期的な変革が加えられ、府県単位に建設業協会が設立されたのである。協会の運営は従来の組合とは組織を異にし、業者の指導連絡機関たるとともに政府の諮問機関として重大な使命を帯びるに至り、昨年建設省との提携の下に別に建設業保証会社の誕生を見るなど、こゝに建設界の革命ともいべき強力なる団体となつた。

われら建設業者が日本建築協会員として入会させて頂いたことについて一言述べて見たい。由来日本建築協会は技術者団体として発足し、建築学会が純然たる研究機関で実際方面に関与しないことは建設業界に貢献することが間接的であるところから研究とともに、これを実施

に移し、業界の指導機関たらしむべく創設されたのが、即ち日本建築協会で、わかれは単なる賛助員で発言権などなかった。それがついに現在の如く建設工業——設計、施工、建材——と打つて一九とし業界必須の研究諮問機関として重要な存在となり、昨年早くも創立三十五周年を迎え、数々の有益な行事の実施に私にも微力ながら協賛し住宅展示会にも出品させて頂いた次第である。

昭和20年8月の無条件降伏から連合軍進駐等の七年間は嘗て経験しない複雑な場面が展開されたが、この間大都市の復旧と共にビル建設時代が出現し、業界の一部に空前の戦後景気を齎した。ビル時代も政府の建築制限令により一頓挫を来したが俄然公共工事が続出し、これと併行して住宅問題がとりあげられるようになった。昨年4月講和成立前後から電源開発工事、保安隊工事続出し更に沖縄基地建設工事が異常なる活況を呈し、内地業者

陸統渡沖目下盛んに工事中である。現在業界の焦点は駐留軍工事、保安隊工事、電源開発工事及び其間を点綴する公共事業等であるが、近き将来も矢張り中心は軍事施設、日米保証条約による諸施設の実施、電源開発強化、住宅建設の徹底遂行等考えらるゝも更に速き予想に至つては現下、日本の置かれたる環境よりして、成行を静観対処するより外に方策はないと思われる。徒らに過去を語るは老人であり、壮年は現在を語る、然して将来を語るは青年であることは古代中国の碩学が喝破せるところである。私はこれを休して将来に就ての洞察は、新進気鋭の青年諸賢の卓見に譲り、与えられたる命題の解答は業界は彌々清明隆昌であると断じ、われらはこれに善処して国家興隆に寄与したい念願である。

(筆者 株式会社 浅沼組社長)

一九五三年の建材界を思う

伊 藤 憲 太 郎

景気沈滞に明けた1952年初頭に於ては、同年下半期には景気が出るだろうと云うことであつた。そして建設工事の発注は進駐軍関係も含めて年間3000億以上と云う予想であつた。然し乍ら1952年もその春からの不況は、同年4月講和条約が発効して日本が独立国家として発足してもそのまゝ秋に持ちこされて、一般的に云つて今日までのところ、予想された様な景気には恵まれて来ていない様である。

1953年はどうなるであろうか。国内的に云つても昭和23年度国家予算が決定していないし、又戦後国際状況が鋭敏に反映する様になつた日本の産業経済について之を予想することは非常にむづかしいことである。唯今日の場合予想出来ることは、1953年は国内的には電源の開発、計画住宅の建設及び耐火建築の促進等に対して財政資金による投資が、1952年の場合に比べて建材の需要を増加するだろうと云うことです。即ちセメント、砂利類、碎石類その他の基礎資材は勿論、一般建材についても考えられる。

前記の様に今日に於ては輸出は勿論のこと、日本の国内の動向がアメリカの政策によつて左右せられることは云うまでもないが、1952年11月5日に於けるアメリカ大統領選が共和党の勝利に帰し、ア元帥のアジア積極政策がどんな風に展開されるか。アメリカの予算では、その政策による転換ありとしても、その影響は1953年の秋と云われるが、こゝに防衛とこれに關聯する国内産業の施設等について、建材についても新な需要が予定せられるのではなからうか。

国内に於ける建材の生産力の回復——それは数量的に

は勿論のこと、原料その他についても従つて質的にも——は目覚ましく、又新製品も出る様になつたから、その種類はむしろ戦前より豊富となつて来ている。即ち輸入品としては防水剤、防水塗料、セメント混和剤等の化学製品、米材、南洋材等の木材其の他があり、又技術乃至設備等の輸入による新製品もあれば、外国製品の模倣もある。即ち硬質繊維板、アスファルトタイル、コンクリート、ブロック、P・Sコンクリート(コンクリートミキサートラックを輸入して之によるコンクリートの配給も始められる様になつた)等が生産される様になつた。これらが最近に於ける日本の建築や土木の設計に、施工に、他の多くの新しい建設用諸機械設備の活用と相俟つて新味を齎しつつあるが、1953年は益々この傾向に拍車をかけることであろう。殊に合成樹脂の建材への応用は一段と盛んになることであろう。

次に1953年を迎えるに當つて建材業界に於ける2,3の問題について述べて見たいと思う。

(1) 法律の問題、建材界に於てこゝ両3年来懸案となつている法律案は2つある。1つは砂利採取権の確立に關するもので、他は木材の防腐処理に關するものである。

前者については砂利業界に於て1950年以来組織的な研究と法案の推進についての積極的な運動が展開されて来た。河川敷内国有地に於ける砂利採取権については丁度改正立案中の河川法改正案に折込まれているが、同法案中問題の水利権については、今度は関係各省間に了解成つて同法案は国会を通過し、従つて砂利採取権の問題も同時に1953年中には実現出来るものと期待している。又

国有地以外の、即ち私有地に於ける砂利採取権に関する法律案については通産省に於て右の河川法改正案に併行して研究されているが、何れにせよ本問題は砂利業が産業として今後発展する為の基本的事項であつて、現在ドレツチャー1隻の施設に1000万円を要する大投資であつて見れば、最大1年位の期間で更新して行かねばならぬ採取許可が政治的取引の対象になつたり、又採取許可の方針が河川管理1点張りで砂利業の保護育成と云う様なことが全然省みられない様なことでは安心して投資出来ないと云うわけである。法律制定までの暫定措置として1952年9月建設省、通産省の関係局長連名を以て発せられた都道府県知事宛の通牒は、従来の河川管理一点張の都道府県従来の行政方針に対して劃期的な転換を要請したものと見て注目し値するが、これの運用如何によつては法律の出来るまでそれに代つて、実質的に現状の欠陥を補うことが出来るであろう。

第二の防腐木材の法案は議員提出案として1952年春、通常国会に提案自由党総務会まで持ち出されているが遂に日の目を見ずにしまったことは何と云つても残念なことであつたが、1953年には是非共成立させて我が国森林資源の確保に役立たせたいものである。

(2) 規格の問題、品質水準の維持向上を目途とするJ I S表示許可制は昭和25年度以降2ヶ年半(1952年10月末現在)で指定品目230、許可申請工場約2,700、内許可工場1,932、その中建材としては30品目、許可工場472であつて、その内訳は許可工場の多い指定品目順に (1) セメント瓦の101工場、(2) 厚型スレートの67工場、(3) 油性塗料の39工場、(4) ワイヤラスの36工場、(5) メタルラスの25工場、(6) 石棉スレートの24工場等である。1953年に於てはこれら指定品目は追加せられ、許可工場数も増加することは勿論のことである。唯問題はこれらの許可工場が必ずしもJ I S表示製品の生産を行わず、需要にまかせて悪くても安いものを製造し販売することである。勿論これは違法ではないにしてもJ I S表示許可制度の目的に副わないのであつて、この場合には『J I S表示許可工場』は徒らに世間を誤魔化す看板となるのみでなく、他面真面目にJ I S表示製品のみを生産する業者を脅かす結果を招来するものである。この

様な場合J I S表示許可の返上論まで出た業界もあつた。後述の如くこれには買手の側に立つ設計者や建設業者のJ I Sに対する格段の協力が要請せられる。ともあれこのJ I S表示許可制度は遂に一般に認識せられて来て、工場としてその表示許可を得なければ損だと云う考え方が出て来たことは喜ばしいことである。1953年には指定品目、許可工場の増加に並行してJ I S製品の使用を常識化することを促進したいものである。

(3) 建設業者と建材業者との間の取引の是正、建材は云うまでもなくその需要先は、輸出の場合は別として、普通は建設業者である。稀には官庁等で建設発注に當つて材料支給とする為、建材を直接買上げる場合もあるにはあるが極めて稀である。戦時中及戦後、軍及特別調達庁は大口に建材を直接買上げてくれた。このことは建材業者を大いに喜ばせたものである。何故であるか。これには建材業者が価格の面で有利な場合もあつたかも知れないが、何と云つても支払が早くて確実であり、その上その受注を見返りに融資の途もつくつと云う点であろう。由來建材業者はお得意先の建設業者に隷属するものとせられている。蓋し建材業者の興廃は一にその取引先である建設業者に依存するからであろう。建設業者が建材業者に対してあまり無茶な値切り方をしないで、しかも支払をよくしてくれるか否かは建材業者にとつて最も重大な関心事である。然るに現状では建設業者と云うものは建材業者や下請の犠牲に於て運営されている場合が可なり多いのではなからうか。企業運営はもとより、その合理化や建材の規格化の推進の如き行政の成果にも関連する重要な問題が、直接間接建設業者の無理解の為に阻害されている場合が往々あり得る。施主と建設業者との間の取引の改善については業者は勿論、主管官庁である建設省に於ても建設業審議会等で考究されている様であり、その結果として今度の保証会社も生れたのであろう。この会社の出現によつて建材業者がどれ丈恩恵を受けることが出来るであらうか。建設業者と建材業者の間の取引の正常化——それはとりもなおさずその民主化であるが、保証会社の出来た機会にこの問題の解決に一步でも前進出来れば幸と思つている (27. 11. 16)

(筆者 社団法人 日本建設材料協会理事長)



建物クリーニングの店

創業30年 古い歴史と新しい技術

ビルディングのクリーニング工事
古い住宅が新築同様になる美業工事 請負
新築住宅にお手入れのいらぬ美業工事

株式会社 美素工業所

大阪市東区瓦町(新筋)三和ビル三階 電話北渡5888番



構造問題 1952—1953 年

鷲 尾 健 三

与えられたこの表題に対して、建築構造学界の今日の研究問題がどんなものであるかというようなことについて申し上げようとは思っていません。この協会誌の読者諸賢には、もつと切実な『構造問題』があるはずですし、編集者もおお積りだろうと思うからです。また一方、私の最大関心事も、この頃は、学界だけの問題よりも、学界と建築現場、研究と実際の関連等にあるからです。それで、私は、僥倖ながら、これら『構造問題』に関連して私見を申し上げて、諸賢の御批判を仰ぎたいと思います。したがって、これは必ずしも、1952年から1953年にかけてだけの問題ではありません。昔から判っていることですし、同時に、何時も変らぬ問題です。しかし、これらを自覚しないための、または、知って知らぬ振りをしているための害が、だんだん甚しくなつて来て、見逃せなくなっているために、今日こそ、今日の問題だとして取上げてよいと思われる。それで取上げる決心をした次第です。

× × ×

その第1は、今日の構造技術はバランスがとれているかという問題です。構造主体の骨組についての理論は精細なものが出来て居り、「弾性理論は既に古い。塑性理論を取り入れるべきだ。」といわれています。また、シャーレその他の新しい構造形式が考えられ、その理論が発展しています。基礎工法の新工夫も、いくつか実現しています。その一方、地盤の影響はどうなのか、壁があつたらどうか等と考えますと、わからない、また、わかつていても十分でないものが沢山あります。これらの姿を見渡しますと、私はエンエン長蛇の列をしている幼稚園児の遠足を想い出します。これでよいのでしょうか。

私の専門は、ラーメンです。それで、ラーメンのことでよく相談を受けますが、その時逆に私の方から、ラーメン理論の偏重や鶴呑みはやめて下さいと反対します。もつと大事な事が落ちてはいませんか。私は、この頃何時も考えるのですが、私共は何の疑もなく、建物を土地から生えた木のように考えていないでしょうか。これは勿論構造の立場からです。ラーメンを解いて構造設計をする場合のことです。大抵は柱脚固定のラーメンを解いて、こんなラーメンを考えていることに疑を持たないのではないのでしょうか。私は、この頃の、所謂ビル建築等は、「生えた建築」でなく「置かれた建築」と考えるべきだと思います。ラーメンとしては、地下等の地下構造物と同様に考えるべきだと思います。少くとも、「生えた建築」でなくて、地盤に「突きさした建築」位の所ではないかと思います。人工の建築と、天然の場所

である「地盤」とは、ゴッチャに連続に考えることは出来ないのではないのでしょうか。

話が充分協道に外れましたが、ラーメン理論の精密さと、実際の建築物とを、静かに謙虚に見比べて見ますと、上の様な議論も出て来ます。構造技術から見ますとラーメン学は、列から離れて行く幼稚園児みたいな所はないかという訳です。勿論これらの議論の根底には、学問と技術の関係というむづかしい問題がありますが、しかしいくら精密な計算をしたとしても、一番始の出発点である負担荷重がアイマイだつたり、コンクリート強度がいくらになるのか判らなかつたり、土の中がサッパリ判らなかつたりしたら、折角の精密な途中計算も何をしたのか判らないことになりましょう。私は、最小限度、この意味で構造技術のバランスを問題にしたいのです。わかりやすく申せば、精密度のバランスを保つことです。数値を取扱う時には、必ずその誤差又は正確さを考えて、そのバランスを保ちたいというのです。精密すぎるものと、大雑把すぎるものとを、ゴッチャにせぬようにしたいと思います。小さい例ですが、ラーメンは略算で十分だという時、その略算の精度は判っているのか、又、その精度が他の構造設計のそれとバランスがとれているかという事を注意すべきだといいたいのです。この意味で構造技術のバランスというならば、むしろ、誤差問題といった方が通りがよいかも知れません。私共研究仲間にとつては、理論偏重に陥るな、実用される数値を問題にし、その誤差問題に注目せよという方が、現今の大切な問題であることが身にしみて感じられましょう。

× × ×

第2の問題は、設計技術と現場技術の問題です。設計技術は、現場でその通り実現されることを信じ、少くともその期待の上に成立しているといえましょう。良心的な設計者の思い通りにやつて呉れるようにする設計だといえましょう。しかし、設計者が、たとえ現場技術に通じて居り、可能な設計をしたとしても、必ず現場で実現されるという絶対の保証は何処にもありません。ここに設計監理と施工とを対立関係に置かうとする考えが出て来ます。そして、十分な監理によつて、設計者の意図の通り実施される筈になつていますが、実際はどうでしょうか。その通りにはならないのが常識ではないでしょうか。現場コンクリートの試験もしている。何もしている。だのにこんな事をいうのはケンカラメといわれる諸賢もおありでしょう。私は、そういわれる御気持もお察し出来るのですが、建築界のために、謙虚に、事実を事実として認めて、ほんとの解決策を考えたいのです。そ

のために、敢て、こんな事を書く決心をしたのです。事実としての記述が拙いのならば、理窟として聞いて頂いても、筋は通っている事を信じます。いゝかえますと、実現を「期待する技術」である設計技術と、それを「実現する技術」である現場技術との間には深淵があつて、必ずそのまゝ結びつくという絶対的な保証はないだろうということです。いくら監理を厳重にしても抜け道は次々に工夫されて行き、出来上つた建築を正確・迅速に鑑定出来る、完全な客観的診断技術が完成しない限り、「期待」と「実現」の喰違いをそのまゝに逃げようとする抜け道を絶対に作らせないということは出来ないでしょう。ここに、技術的良心の問題が出て来ますし、一つの「建築」の中で、「設計」と「施工」を対立させて考えないで、協力する両輪として理解すべきではないかという問題が出て来ます。私がここにこれを取上げましたのは、こうすべしという解決策を提案するためではありません。解決すべき目下の大問題であることを、諸賢に認めて頂きたいというのであります。私共のような学校・研究機関という狭い世界に住んでいまして、この対立の弊害をマザマザと、私共の所へ持ち込まれる仕事を通じて体験させられるからです。何か、同じ一つの建築界の中で、対立した2つが喰ひ合っているみたいな気がします。背中合せのように思います。当然反対でしょう。手をつないで、建築を註文する施主や社会に、相対して行かねばならない事は、私などが申上げるまでもない事です。それに、第3勢力である指導・監督官庁までが、それらの「設計」と「施工」両方を監視せねばならないとなると、全く情ないといわねばなりますまい。これは、私が、極一部の稀な悪い例を取上げているまでで大勢は私が案じるようなものでないことを信じたいのですが、どうも私には安心がならないので、ここに取上げたのです。少くとも、新しい年の出発に当つて、「設計技術」は、自分の独善を棚に上げ乍ら、他を悪人扱いしてはいないか、「現場技術」は、良心を忘れて抜穴許りがしてはいないか、他人を自分の敵と見ていないか、「指導・監督」は、自分の仕事の楽になる方法だけを研究したり、他を悪人視したりしてはいないか、皆が同じ建築界の構成員である事を忘れて、お互に背を向けてはいないか等と反省しようではありませんか。そして、当然私共の共通の目的である『良い建築の実現を通じての社会への寄与』に、手をつないで進もうではありませんか。

× × ×

第3の問題は、技術の普及の問題です。これも大変むづかしい問題です。色々な問題を含んでいますが、手近かなことから申し上げます。

ラーメンが日本に紹介されたのは随分前のことで、矩形ラーメンが解けるようになり、不規則ラーメンも撓角

法で解けるようになったのは、昭和10年(1935年)頃のことです。私のいました専門学校では2年の前期にこれを教えていました。それなのに、今なお、不規則ラーメンを解くにはどうしたらよいのか等との質問を受け、又、ラーメンはムツカシイとの声を聞きます。ラーメンはラジオみたいなもので、解くのは、ラジオで音楽を聞く位容易なものだとは私共の持論なのですけれど。この1つの例を見ても、構造技術の研究面と実施面の隔りの大きい事がわかりでしょう。諸賢は私などよりもつとつと痛切に感じて居られるかも知れません。又、現場とか実務とかに関係して居られる方々の中には、私共研究機関に籍を置く者よりも、研究的に進んで居られる方もおありだとは思いますが、大勢は、やはり、現場技術が一番遅れて居り、研究はそれぞれの方面で進み過ぎていく位だと申しても過言ではないと思います。日本建築学会では随分色々と構造計算規準とかその解説書とかを出しているのですが、新しい技術という程でもない既に常識化している技術が、案外普及していないように思われます。もつともつと何とかしなければならないのではありませんか。何とかしなければならない事は、恐らく皆知つていて、なおこの状態であるというのが真相かも知れません。私は、これは、職業補導所とか、工業高等学校とかの、普通下級だと思われている面での技術教育の欠陥も、一つの原因になっているのではないかと思います。例へば、昔は、ラーメンは如何にもムツカシイモノであつたでしょう。しかし、もう今は、これを解く位は何処の卒業生でも出来るべきではありませんか。既に長い研究期間を経たのですから、もう、そのエッセンス常識化してよいものが、判つている筈ですし、それを低学年生徒や初歩の人達に教え込む教育法・説明法を工夫し、成功しているべき段階だろうと思います。何時までも、昔、ムツカシカッタモノをそのまゝムツカシイとして敬遠しては、技術の進歩は考えられません。それとも、まだその段階ではないといわれるのでしょうか。もしそれが事実なら、ラーメン学者の怠慢でもありましょう。しかし、根本は、もつともつと積極的に、定説化した新しい技術を、初等の技術教育にウマク取入れるべきだという事だと思います。「初等技術教育が進歩的でない、積極的でない。」という以上に、「初等技術教育を進歩的ならしめるような、私共の努力が足りない。」「初等技術教育の重要性が痛切に感じられていないのではないか。」という事ではありませんか。もつと、初等技術教育に(職業補導所の段階をも含めて)重点を置いて研究し、又、良い教育者を多数この方面に確保しなければ折角の技術上の研究成果が、現場に反映しない、現場で実現する構造に表われて来ないと思います。例えば、現場のコンクリート工は一人残らず水セメント比説、位は身につけている程度に普及してほしいものと思います。

その為には、上にも触れたように、構造常識として普遍すべきものは何か、それは選択する仕事も大切なことです。技術教育の研究者が分担すべき仕事かも知れませんが、技術教育に参加している教育者の皆が注目し、努力すべき事でもあると思います。教育者が、本務を忘れないで、研究のための研究だけに没頭したり等しなければ、容易に実現出来ることだと思います。しかし、ほんとは、若い技術者の即ち最も適当な教材を選び、教育法を工夫することは大変な仕事でしょう。デザインは勿論構造的教育等でも、私は、中学位までの、デザインに対しては色彩感覚等の訓練、構造に対しては理科教育等から工夫して行けば、案外低学年で必要な基礎的センス（構造的なものも含めて）を身につけさせる事が出来るのではないかという気がしてなりません。それで、このような初等技術教育法の工夫にも、多数の有能な教育者の研究を期待したいと思います。又、教育・訓練制度についても研究を要するでしょう。こう考えて来ますと、構造技術の問題は、建築業界全体の技術教育の体系に、したがつて、職場構成の問題につながっている事が察せられます。所謂職人をも含めて、広い意味での建築技術者が、どんな種類でどんな構成であるのが良いのか、現在の新学制・労働法規その他の下で、何処に欠陥があるのか、それはどうすれば改善出来るのか、こういつた事を真剣に考え、対策を立てなければならない段階に来て居るのではないか、これが私のいわんとする所です。マコトに、遠廻りのようで、又、ムツカシイ仕事ではありません。しかし、これをやり遂げなければ、私共の技術の進歩は大して望めないのではないかと思う次第です。

× × ×

今日の「構造問題」ということから、話が遠く離れてしまつたようです。しかし、ふりかえつて見ますと、結局、私共の問題は、構造の個々の問題よりも、その背景といふますか、その基盤といふますか、そういつたものと広い大きな問題の解決こそ急務ではないかといえるの

ではないかと思います。私共は、余りにも、これまで個々の研究成果にゲンシクされ過ぎたのではないか、個々の構造技術についての研究成果が、次々に見事に目マグルシク出来上つて行つたので、ほんとの構造技術を見失つていたのではないか、少くとも、そういえるのではないかと思います。

個々の、私共研究者の研究に当つても、同様のことはいえます。自分自身の目先の研究追求にセーバイで、その成果の待ち望まれている世界を忘れ、後になつて、学問は、必ずしも、技術や応用工学と同列・連続ではない等と苦しい言訳を考えなければならない事になります。この言訳自身もムツカシイ大変な研究問題ではありますが、たとえば学問だけに限るとしても、大事な根本の立場を忘れ勝ちなことは、私共未熟な者のよく経験することで、何時も、自戒につとめている所であります。

このような根本の大問題を取上げると、よく、実現不可能な大風呂敷だ、空論だと一シユウされる事があります。しかし、実現可能などというのにも色々あつて、一寸した目先の工夫だけが、実現可能なものではありません。出来そうになくて可能なものもあれば、不可能かも知れないが、何とか実現するまで努力せねばならない、いわば運命的な仕事もありましょう。私の申上げたのはこの最後の場合のようなものだ、私は信じています。一時ゴマカシ許りでは、何時まで経つても、現場は、研究の先端とのヘダタリを大きくする許りで、下手な幼稚園児の行列みたいになるのではないか、だからこそ、何とかこの際反省し努力すべきではないかというのが、私の立場であります。

× × ×

一向に要領を得ない文章を書き連ねました。何回か読み直して筆を加えたにしても、私には珍しい書下しです。読みづらい所はお許し願つて、私の意のある所を御汲取り頂けば幸です。

（筆者 大阪大学 工学部構築学教室 教授）



近代建築の粹

世界に雄飛する

床材は リノリウムと リノタイル

東洋リノリウム株式会社

取締役社長 齋 敬二

本社及工場 兵庫県伊丹市伊丹五五八番地 電話 伊丹 1・51・69

東京支店 東京都中央区銀座四丁目(三和ビル) 電話 京橋1701・2564

大阪事務所 大阪市東区瓦町二丁目(三和ビル) 電話 北浜375・376

TOYO'S LINOLEUM & LINOTILE

構 造 1952—1953

伴

潔

1952年を送って今また1953年を迎えることになった。去年も世界は大きく廻転し、世は水爆時代が出現しそうである。今年も去年と同じ速度で世界は廻転することであろう。我国の建築も敗戦直後の貧しさのどん底時代を除いて異状な速度で発達しつつある。長かつた戦争中の建築禁止状態から解放された勢のすさまじさがしからしめるのであろう。東京、大阪或は地方の都市に建られた多くの鉄筋コンクリート造、鉄骨コンクリート造いづれを見ても美しい外装を施し、樹脂塗料でピカピカ光つて居る。エレベーターは音もなく我々を上層へ或は下層へ運ぶ。夜は蛍光灯が文字通り屋をもあざむき、街路ではスマートな高級車が走っている。トントン葺の住家があるにもこちらにも作られた数年前の状態は4層建の鉄筋アパートに変つて来た。まことに隔世の感である。これが日本の国の貧困時代の出来ごとである。

建築物の外観が変る様に構造も徐々に変わりつつある。1952年が特に変化が多いと云うのではなくて戦後我国の建築構造が辿つた道を今年も辿ることであろう。

建築構造の発達はそれ相應の施工技術を常に伴わなければならない。理論上或る構造法が優秀であろうともこれを実現し得べき施工技術を伴わないならば、その良さを充分に発揮することが出来ない。鉄筋コンクリート構造に関してはこのことが、他のどの構造材料よりも痛切に感ぜられるものである。「理想的に作られたコンクリートは骨材の周辺にセメントペーストが完全に充填され空隙、材料の分離、或は組織の不均斉がない。」と先人は我々に教えるのである。又「セメントペーストが骨材を膠着するのはセメントと水との間の化学変化であり、この反応には時間が必要である。温度湿度の外的条件も要求される。この反応に必要な水量は比較的少量であるが、コンクリートの打込みやすいために通常必要以上の水を使用する。ペーストは水の増加と共に稀釈となり、その硬化物の強度は低下し外作用に対する抵抗が減退する。」とも説くのである。之等先人の教えの通り水が少なくて打ち易いコンクリートが出来れば理想的なのである。この目的のために多くの努力が過去久しく行われて来た。戦後になつて外国のこの方面の研究結果は遙に我々よりも進んでいた。それらが我国へ急速に伝わつて実行にうつされつつある。曰く、A. E. コンクリート、振動打ち等である。

コンクリート打放しのキメの細い如何にも強そうな建物がボツボツ出来ている。1952~1953年もこれらの建物が諸所で施工されるであろう。構造様式は依然としてラーメン式が多い。これは我国の特色であるかも知れな

い。不静定解法理論の発達、鉄筋コンクリート構造の進歩が急ピッチに発展し出した時分に関東震災に見舞れた苦い経験が、多くの俊秀をラーメン学と振動論の研究に没頭せしめた。それから久しい間、学会の構造論文はラーメンの研究に主流が移つた観を呈したのである。今日でも尙ラーメン解法の研究の発表が出るのはこの様な歴史的背景が一つの原因でもあろう。今日実際構造物の設計は弾性ラーメンの計算に始まると云つてよい。しかし戦後ラーメン学研究は耐震壁の研究へ移りつつある。在来ラーメン学の範囲ではその解法研究は一応行くつくところまで来たと云う感じであるので耐震壁の研究に移行して行くのは当然であらう。1952年も亦この様な努力が行われて来た。1953年には更に多くの努力が費され立派な収穫が得られるものと信ずる。

しかし、ラーメンの計算もいつまでも弾性範囲内の問題にとどまつているわけには行かなくなつた。と云うのは我々の用うる構造材料特にコンクリートと木材とは弾性的だとは云い得ない性質をもつて居るからである。応力と歪みは正比例すると云う完全弾性体、その中でも変形量が微小な状態の力学的世界に我々の構造物をおしこめて置くわけには行かなくなつて来た。クリープと塑性変形に関する研究が進むにつれてラーメン計算も、断面設計法も変更されなければならない。この様な研究が1952年も盛んに行われて来たり1953年にも更に進歩するであらう。1953年のラーメンの研究はこの様な方面に向つて更に大きく前進して欲しい。微小変形のみでなく有限変形へ構造力学を展げて行く夢、それを1953年に実現してほしい。衝撃、塑性、有限変形問題は山積みである。夢は夢として終るのだろうか。1953年中には無理だろうか。

ラーメン様式の他に壁構造が実用化されて来た。好んでデザイン上の理由から採用される小規模なシャーレから可なりのスパンのものまでが実際構造に採用されつつある。その他外国と同様 **Box Construction** が採用されている。戦後多く建ちつつある4階建共同住宅の形式である。ツリーフォームスタイル、とラーメンスタイルの中間形（広島原爆博物館の型）構造のものマッシュルームスタイル、の広島児童図書館等の型、これらも今後盛んに建てられるであらう。戦後の新しい構造型式就中、**Box Construction** に関する構造規準、鉄骨及鉄筋軽量コンクリート造、コンクリートブロック組立鉄筋コンクリート造等に関する構造規準が学会に於て研究され一応の成案を得て居ることはこの方面の実際技術家には大きな便宜を与えるものである。

1920年代から始まつたブリストレスド・コンクリート

に関する関心が我国に於て1952年度に著しく高まつた様に思われる。ホイヤー、アベル、フレッシュ、マグネル等の名が実際技術者にも親しまれて来たのはごく最近である。我国にも既にこれに関する会社が生れ生産を始め居る。東京駅のプラットフォームの工事などはその顕著なものである。ピアノ線又は硬鋼線を用いてコンクリートに圧縮を与え構造断面に引張を生じない様にする着想の実用化時代に代つて来た。諸外国に比してその実用化が遅れているとは云え、それだけ急速に発展することゝ思う。プリテンション或はポスト・テンションと云う言葉がビーム・ジョイント等の言葉と同様に実際技術家に親しまれるのは1953年に於て特に著しくなるであろう。我々はプリストレスドコンクリートの性能を在来鉄筋コンクリート或は鉄骨と比較して考えることが多いが、木造と比較して論じている学者も居る。これは注目すべき見方であつて、プリストレスド・コンクリートの薄板或は小断面の梁材は重量も強度も木材に比肩し得る程の性能をもつて居る。都市不燃化問題が喧しい折柄、不燃材料として木材に代るべき材料をプリストレスドコンクリートに見出すことも不可能ではない。そこに軽構造不燃建築の新しい夢が出る。1953年度にはこの方面の研究及び発展を望みたい。高強度鋼の使用はプリストレスドコンクリートのみにとゞまらない。通常の鉄筋の高強度化、それに伴う亀裂発生防止と異型鉄物の使用による附着強度の増強等この研究は今年度に進展するものと思う。

靱性を考慮した鉄筋コンクリートの研究、プリストレスド・コンクリートの研究の他特に我国に於いて戦後研究され出したものにプレコンがある。諸外国ではプレコンの研究及び実施は遙に盛んである。この方面はもつともつと研究さるべきではなからうか。ブロック建築も戦後の一特徴である。これをプレコンの中に広く包括するならばプレコンも盛んになった。鉄筋を入れたプレコンはもつと発達さるべきだと思う。以上述べた諸事項に関する学会に於ける関係論文を春秋の二回の大会についてひろい上げてみると次の様である。

Box Construction に関するもの

壁式鉄筋アパートの振動実験報告——横尾義貫

シャーレに関するもの

不静定球殻について

横尾義貫

シリンドーシャーレの実験的研究 //

パラボリック、ハイパラボロイド

曲板屋根の変形

坂 静雄

A. E. コンクリートに関するもの

A. E. コンクリートに関する研究

狩野春一

浅間産軽石コンクリートに対する

AE 剤効果の実験的研究

浜田 稔

コンクリートの終局強度及び異型鉄筋に関するもの

鉄筋コンクリートラーメンの靱性応力

梅村 魁

繰返し応力をうける新形異型鉄筋

継手の耐力

武藤 清

付着応力度と亀裂の幅

加藤六美

鉄筋コンクリートの終局強度型

実用設計式

大崎順彦

コンクリートの収縮による

開口壁の応力について

松井源吾

鉄筋コンクリート材の終局強度形

断面決定法

梅村 魁

プレコンに関するもの

プレコン柱の強度試験

大石健次

プレコン梁の実大試験

田辺平次

プリストレスドコンクリート

曲面構造の元応力コンクリートの応用

河合三郎

ラーメンに関するもの

矩形ラーメンに於ける剛域の影響

鷲尾健三

布基礎を有するラーメンの計算法 浅野新一

その他 平見、技長、安東諸氏の研究あり

不規則ラーメンの機械的解法

二見秀男

応力法と変形法を併用したラーメンの

機械的作表法

斎藤謙次

無限級数の形をとらない始元系解法 伴 潔

矩形ラーメンに於ける梁剛比変化の

影響について

鷲尾健三

円弧材を含む架構の計算に就いて

平見静夫

多辺架構の連続性について

角田重喜千

杭

特許
特長

武智式鉄筋混泥土杭基礎工
日信三角型鉄筋混泥土杭基礎工
測量・地質調査・地耐力測定施工

特長 砂利充填による特殊施工法
支持力強大。工事迅速。工費低廉

株式会社 武智 工 務 所

取締役社長 福留並喜

大阪市西区西長堀北通四丁目宅〇 細野ビル三六号
電話新町回九九五〜九九八番

説明書及び防潮
ノ嵩上盛土地帯
に於ける実績表
進呈

弾塑性ラーメンの極値定理	小野 薫
壁に関するもの	
壁体応力の光弾性実験	二見秀男
耐震壁の研究	小倉弘一郎
"	武藤 清
任意の開口を有する壁体の応力分布	竹内盛男
高層建築の耐震性	谷口 忠
壁体を有する建築物の実用計算法	蛭田捨太郎
ラーメンと壁体	坪井善勝

また最近の外国誌に掲載されたプレコン、プリストレストコンクリートに関するものは次の様である。(表中には1951年のものも多いが最近の傾向を知るために記載した。)

PRECAST CONCRETE

1. Huge arched roofs built of precast unit
(46/47 January 4, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
2. S. B. Robert: Sandwich walls precast for pulp mill
(32/34 February 32, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
3. Precasting cut cost of hospital
(39 March 8, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
4. Cost cut in office building design
(28/30 June 7, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
5. Precast bridge save state money
(40/41 June 7, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
6. Precast slabs solve bridgerepair headache
(26 June 21, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
7. V. R. Gorham: Precast slabs make low cost bridge
(37 October 4, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
8. Houses closed in fast with precast walls
(30/31 november 15, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
9. Lone star cement corporation: An Idea with a future. Panel construction offers wide range of possibilities
(20/ December 6, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)

10. Leslie A Irvin: Light and heavy walls precast for factorys
(35, December 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
11. Precast walls speed defence plant
(38 January 10, 1952. ENGINEERING NEWS-RECORD)
12. Here's a steel saving scheme ... Precast concrete piles without steel
(44 January 10, 1952. ENGINEERING NEWS-RECORD)
13. P. M. Grennan: Precast sandwich wall make cost tumble
(34/36 January 24, 1952. ENGINEERING NEWS-RECORD)
14. R. Neil Christy: Sandwich walls precast on rolling forms
(30/31 January 31, 1952. ENGINEERING NEWS-RECORD)
15. Underground garage walls built last
(30/31 March 6, 1952. ENGINEERING NEWS-RECORD)
16. Some new wrinkleless on panel walls
(58/61 March 20, 1952. ENGINEERING NEWS-RECORD)
17. Precast panels enclose skyscrapers
(67/68 April 24, 1952. ENGINEERING NEWS-RECORD)
18. Pier Luigi Nervi: Thin reinforced concrete members sorm Turin exhibition halls
(26/31 January 1951. CIVIL ENGINEERING)

PRESTRESSED CONCRETE

1. Rigid-frame bridge of prestressed concrete
(35 March 15, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
2. Prestressed beams with bond
(42 April 12, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
3. Concrete prestressed in tension
(33 May 3, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
4. Simple prestressing system for pedestrian bridge
(40/41 May 10, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
5. Concrete-block lighthouse 125ft. high prestressed with vertical cables
(47 May 31, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)

SSS プラスター

(純石膏性)

THE 南 (75) 6206

サンエス石膏株式会社

6. Prestressed roads favored
(46 June 28, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
7. P. W. Abeles: Here's an answer to
How much prestress?
(32/33 July 5, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
8. First prestressed piles carry tank platform:
John J. Parret
(38/39 July 5, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
9. Wide interest in prestressed concrete shown
by a attendance at MIT meeting
(24/25 August 23, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
10. Novel prestress design for office building
(38 October 18, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
11. Prestressed block beams span 45 ft
(30/31 October 25, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
12. Prestressed roof beams get first U.S. tryout
(32 October 25, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
13. Teaching of prestressing
(65 November 15, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
14. Cast-in-place concrete bridge beams prestressed
(42 December 13, 1951. ENGINEERING NEWS-RECORD)
15. Prestressed building girder save steel
(28 January 3, 1952. ENGINEERING NEWS-RECORD)
16. Prestressed cross-bracing stiffens lock gates
(49 June 1951. CIVIL ENGINEERING)
17. Leo H. Corning: Why prestressed concrete?
(41 October 1951. CIVIL ENGINEERING)
18. Discussion of Design of Prestressed Tank
(Published in October 1950)
(VOI. 77 No. D-37, Nov. 1951. PROCEEDING A. S. C. E.)
19. Equivalent Load Method for Analyzing Prestressed Concrete Structures, Robert B. B. Moorman
(405/416 January 1952. JOURNAL of the AMERICAN CONCRETE INSTITUTE)

市街地ビル施工上、竹中工務店が日活国際会館について大阪駅前の第一生命ビルの潜函工法に成功したことは施工技術の研究に立遅れている我国の現状に於いては注目すべきことであり、この工法がアメリカの技術界に日本の施工法に関して関心をたかめたことは慶賀すべきことである。

以上構造1952~1953年と題して記したが木造及鉄骨造に関してはふれなかつた。資料を集める時間がなかつたためこれに就いては読者の御寛容を乞う。

1952年がそうであつたと同様に本年も戦後の外国技術の吸収同化、発展と在来から研究されて居る諸事項の発展がめまぐるしい速度で展開してゆくことであろう。

(筆者 神戸大学工学部教授)

53年度の建築教育に望む

中 野 順 次 郎

今日の学校教育にとつて、大きな課題となつてゐるのは、教育の方法を、従来のアカデミックなやり方(Academic Style)から、職業教育的な方法(Vocational Style)に変えていこうということである。

学校の教育方法が学問の系体にそつて知識習得本位に行われることには深い歴史があり、学生にとつても大きなみりよくでもあつた。そして学校を卒業することがある資格の獲得となり、就職への有利な条件となつてゐることから考へても、学校での教育がむづかしい知識を習得するに役立つように行われて来た理由であつたことも認められる。従つて知識を尊重し、学問の道を追い求める形式に於て教授されるアカデミックな教育が行われた

ことは当然の結果であつた。

斯くの如き時代に於ては、社会もまたこれに応ずる状態にあつたのであつて、大多数の市民は学校教育を受けることのない、或は極く僅かの年限しか受けていない人々であつた。その中に、深く広い知識を習得した、いわゆるインテリ階級の少数の人達があつて、大衆指導の地位につき従つて社会的にも主要な立場に置かれるに至つたのである。

この様な社会に於ては(未だ文化水準の低い時代)学校教育が貴重なものとなり、或は特別の指導者層のための教育として成立つことは当り前の話である。従つて一般市民の子弟も出来ることなら、斯くの如き学校に学

ぶことをもつて光榮とするような傾向となつたのも無理のないことである。

こんなわけで、日本の教育も明治から大正と僅か 100 年足らずで急速な進歩と発展の一路を辿つて来たものである。6 ヶ年の義務教育の上に中学校、高等学校、大学と大多数の国民の希望を充すに足る学校教育施設が拡充されるに至つた。

そして遂に小学校は一般国民の水準を定める教育となり、中学校以上は生存競争の姿そのまゝに、やがて社会の指導者たらんとする者の登竜門的機関となつたのである。省みれば、かつては大多数の、教育を受けざるものが今日は逆の結果となつて学校教育を受けた大多数の者となつて社会を形成するに至つたのである。

このような状勢の変化を更に決定的にしたものはここ数年間の学校教育で、6 年の義務教育は、9 ヶ年に延長された。(前の中学三年までの教育)つまり国民は一人残らず 9 ヶ年の一般教育を受けるといふ段階である。

こうなつてみると、学校に於けるみりよくは単なる知識の教育だけで保ち得る筈がないのである。社会状態の変化に伴い学校教育への要求に変化の起ることも当然なことであつた。

新しい教育の制度は、これを実施して既に 6 ヶ年になるが、アメリカの注文があろうがなかろうが日本自体の情勢の変化によつて、教育に対する要求の変ることは当然として覚悟しなければならない問題であつた。

しかしこの変化は、既に過去数 10 年の学校教育発展の中に芽生へつゝあつたものと認めるべきであらう。最早学校は特別な、貴重な人々を教育する場所ではなく、成る可く多く、国民の大部分を養ひ育てる場所でなければならないところである。

そして、これ等の子弟はやがて職業に就き、近代社会を組立てるところの重要な人達であらねばならない。

云はゞ職業 (Vocation) に就きよい市民となるにはどのような教育が必要かという問題である。そこで学校の教育が Vocational な面からみて果して適当か、どうかと批判を受けるに至つたのも当然のことである。

建築教育といへども、また同じことで、やがて建築に関する職業を対象としての教育であれば、この目標に向つて、合理的な教育方法が工夫される必要がある。

今日に於て学校は建築学を教え、実験を試み、そしてこれが建築学者たる基礎コースになるが如き教育があるとすれば、この方法を更めなければならないのである。

或はまた、建築教育に於ける主要な教材が建築学なる体系の中からのみ選ばれて組立てられるとすれば、これもまた妥当ではあるまい。

然らば一体何をたよりにして行べきであらうか。問題はここから考へてみなければならない。建築学から離れて建築教育が成立つと断ずるのではないが、これのみ

に頼る教育の在り方が批判の対象となるのである。

それならば、直ぐ役に立つ既成品の建築職業人を教育するののかという考え方も出るであらうが、これを本筋を把んだ考え方とはいへない。

それならば主体はどこに置くか。建築教育に於ける Vocational Style とは何をねらつてゐるのかということになる。

問題解決の手がかりは、建築に関する職業人がどのような範囲で、どのような職種で、どのような仕事にどのような技術能力で働きつゝあるかという判断の仕方にあるのではないか。

学校教育である以上職業如何に関係なく人間形成について問題のあることは当然であるが、これを別として考えた場合、建築に関する主体的な職業人の教育を考えるならば先づ第一に建築職業人なるものゝ分析から始めなければならないと思うのである。

この場合、ソ聯や米国で発達した職業分析 (Job analysis) の効果及びこれによつて発達した技能者訓練方法なるものを想像するが、これをそのまま建築教育に取入れることは間違いであらう。

建築に於ては、恰も機械工養成の如き「on the Job training」式の教育とは大いに異なるものでなければならぬのである。

我々の手がかりは建築職業の中から教育の素材を抽出することにあるといつたが、この職業の中には消化された、或は消化されつゝある広い範囲の学問があり、しかもこれの持つ広い技術は日々進歩えの方向に動いてゐるとみてよい。

学校教育が必要とするのは、斯くの如き学問の性質と技術の程度或は指向性でなければならない。このような要素を抽出することにより更に選択と組立を適切にすることにより学校に於ける建築教育の計画はおそらく模様を変えることになるであらう。

かくすることにより Vocational Style の方向に向つての建築教育が始まるものと思う。

ここに私のとり上げた問題は 53 年から始める建築教育というのではなく、日本の実情に即した教育の在り方から割り出して、建築教育の方向を如何に定めるかの前提を論じたに過ぎない。

種々の文化的活動の中で教育ほどゆつくりとしたうねりをもつものは少いであらうが、それだけに基本的な考え方は充分なる検討と研究の後に結論を得ることが大切である。

(筆者 大阪市教育委員会指導主事)

し えん し

社会人として建築界に要求するもの

鈴木 淳子

一、望 郷

故郷広島に行くことあり、慰霊碑を弔う機会を得て、ついでに諸所をあるいて見た。新しい広島に山川の姿が一層郷感をそよと、踏む土に同胞の苦悶が秘められている心地がして慙愧か、憤懣か、えも言えぬ情感がこみ上げて来るのである。商店街は復興し、官庁・会社の白壁が並び市内一円の瓦礫は片づいたが、当時の急造トタン張りで一見廃屋かと思われるもの、或はバラックがそぎの屋根のまゝ、数年の歳月を経て黒く、公園指定地に、やがて立ち退きの運命にある居住者が最後の頑張りをを見せて居るなどは大昔の住いを想わせる。そうした中に、ま新しく曲線的美を描いて慰霊碑がボックリ置かれている。市民の講堂が直線を調えてその前苑に横わっている。何分にもあたりが未だ樹々のたゞずまいもないだけに寒々とした感じが、*「安らかに眠つて下さい過ちは繰り返しません」* 20万の霊に献げた市民の誓いの象徴を心ゆくまで表現されるであろうこの一帯の建設には、平和的構想がどのように実現されるであろうか。私はしみじみ技術者の誠実さに加えて、市民の良心的な協力を希つてやまない。決して殖民地的雰囲気におかされることのないように、講堂の階段を昇つて見た。未完成のひっそりとしたもの寂さと、冷たく固いセメントの感じは、堅固で安定感を与えるというよりも、ふと私の頭にうかんだのは法隆寺・夢殿のなつかしさであつた。然し此の講堂の左右に面目を新にしたイサム・ノグチの設計になる平和大橋・新大橋は、幻想的で、あたりが殺風景であるだけにひどく誇張した存在にうけとられ心を惹かれた。

広島は澄んでいる。橋の上から川底が見られる。そしてそれは昔のとおりであつた。屍が折り重つて浮んで居たという原爆の日から七年、今は艦に静かな平和大橋の姿である。欄干が天空に向つて伸びて、はるかなる世界に平和の歌をおくっている。新大橋は謙虚に伏して欄干の末端は罪なくして惨死した多くの生命を地下に手を握っている。この辺りからの川上の展望は美しいと同伴の友人が注意してくれたが、成る程牛田の山を背景に旧産業奨励館の残骸平和記念ドームが見える。哀々として悲壮抑え難い眺めである。広島城趾にも佇んでみた。懐古的な情感が迫つて、つはものどもの夢のあとの句そのまゝである。石崖のよさが今更らのように新しく心に沁みる。旧西練兵場は市営住宅でギッシリ埋つていた。部屋二間に玄關と台所といった同一のバラックで男便所が板で取りつけてあるのも原始的であるし、風雨を凌ぐのみの此の住居に、うるおいをかもし出す色々の工夫はしてあつても何といつても惨めな住居である。この居住者達の安定あつてこそ広島復興となつてけるが、商店街のすばらしさのすぐ裏にこの生活がある。公園指定地と市営住宅と広い広い空地なお前途遠い建設途上の広島を見て多くの想いが錯綜する。当時罹災した友は瓦礫の中から生き抜いた人の力のたくましさを語り昔に変わる故郷の痛ましさに興奮して私は再軍備の明かになった国情に危機を述べる。かうして歩き廻つてみて広島が真に将来の新しい生き方をしつかり打ち建てることをこそ心から切望する。即ち住居のあり方にしてもどうあるべきか。焦土となつて一物もとどめない広島こそ百メートル道路を始め全然新しい時代の感覚を基調として再起していくのであるから因襲的回顧的といった消極的なものから庶民を向上させ女祿の屈辱的な気持ちから救い上げて頂きたいと建築界に期待し切望する。勿論各人それぞれが明い将来を自らの手でたたかいていこうとする気持ちをもつのが本当であるし希わしいけれども、私達の生活態度は多分にその住宅の様式によつても支配され透導される堀立小屋のような大昔の住いから近代的な公共物に至るいろいろな建築を見ることの出来るのが広島の現状であるが、土族屋敷やしもたや或は私の生家のような町人の家といった徳川時代の面影を偲ぶものは一軒と見ることは出来ない。それでよいのだそれでよいのだ。虚勢を張つたり腹を探り合うためにいろいろな部屋が必要であつた昔の住いから広島だけは完全に解放されたのである。例を生家について考えてみると訪問者の案内を請う場所が6ヶ所あつた。身分と要件によつてはつきり区別されて居た。本玄關、内玄關、受付その横手口、勝手それから台所である。門から台所へ行くまでにくまなく戸（格子戸）が四つあつた。それは盗難よけの戸締りのためだけのものではあろうか。私は若い頃見聞きした色々な事から

考えても全く封建的防衛の方法であると思う。門から本玄関に行く所の戸は格子戸ではなくて大きな引き戸で鉄板が張ってあった、これは平常は開けつばなしで非常の場合に締めるので巾の広い高い閤をまたぐことが、子供心にも年頃になって晴着を装い新しい足袋に草履でしとやかにふるまうにもむづかしいと思つたものである。閤を踏むのではないと教えられて居たので——。受付は本玄関と並んでいたが内玄関に行くまでに格子戸があり、そして奥へ勝手の敷台に入る所にも同様のものがあつた。こうした仕かまへは明かに自分の家、そして生活の内情を人に知られまいためであると思う。客間も幾つもあるがどの部屋にお通しすべき客人であるかは区別があつた。決して応接の気分を尊重することが主体で、今日はお座敷今日は親しみ易く勝手の間というのではなかつた。概して身分と要件で取扱つたものである。親戚とても公式と非公式で案内するのが本座敷であつたり、二の間、三の間であつたりした。御挨拶に出ることを言いつけられて本座敷の閤ぎわに坐することのおどおどと緊張したことを思い出す。今はその生家が本川畔に石崖をとどめて壊滅してしまつたのである。それでよいのだというのは原爆の功績をたゞえるのでは勿論ない。唯再びこうした生活者はなくてよいという事である。現在では仲々そうした広い私宅を建てることは困難であるから、こゝに力んで主張することもないようにも考えられるのであるが、私はそうした封建的な意識が小さい住居にも因襲的、伝統的に取入れられ易いことを指摘したいのである。自由と独立の生活を楽しむことの出来る住い、明るくたくましい社会人の育まれる住い、それは簡素に美しく、一部屋を獨立や、カーテンで区切つて、家人めいめいの良心的な礼儀によつて、孤立と、共同も時宜に応じて可能ならしめるもの、そうした設計図を眺めるとは、ええしくなる。

二、孤から組織へ

暫定的な広島に住居が今日に至るも復興されないで居ることを見て、各地の罹災者の住宅問題も併せて、早く解決されたいものである。大阪の城東線から見える罹災の跡のへれ曲つた鉄骨、工場の残骸は、広島の片づいたのを見た眼には、いかにも怠慢で、だらしく感じられるのである。私は「世界」11月号高良とみ女史の執筆になる揚子江開発の実態を讀んでまことに驚いた。末尾の一節を引用させて頂こう。

「河川湖沼を始め、住宅建設も、各都市で新式方法で行つている。天津の労働者住宅問題解決に、家族たちが積極参加した。土運びをして完成した例もあり、北京飯店前の大通りに続々できつゝある煉瓦四階建築なども新式方法で短時日間にでき上つてゆく。組織を作り、灰色

煉瓦を凝固土で固めてゆく上から木枠を置いて、外塗りをどしどし進めてゆく。政治大学の学生も職員も一緒になつて、加速度の土木建築を大規模な経済建設の一端として遂行しつつあることは注目すべきである。

こうした中国の現状を実に羨ましく思う、広島では復興建設委員会が、東京から来る、おえら方のためにもうける酒宴が、市外五日市町で、頻りに催され、たわいもないうたを聞いて地元の人達が憤慨して居る話もあつたし、慰霊碑の設計者が、委員会と別方面と両方になつて、もめたということもある。所謂縄張り争いとか真相な明かでないが、とにかくあり勝ちな日本のこうした宣伝的、派閥的隘路の一端に建築界の御建闘を要望する。

個人が、その資力で、復興しよう、再起しようとする所にも、遅々として渉らない全国罹災地の問題があるのではなからうか。この事は又農村台所改善にも積極的な計画が阻まれて居る。よい指導者があるところには、立派に実現されて居るこの問題も、もつと広汎に啓蒙と援助の手がさしのべられて然るべきだと思う。どうか組織化された行政的な工事建築の成されるために個人も団体も当局も、将来への希望をもつて奮起しなければならない。

三、結 び

冒頭に於いて広島感想を述べたのは、今回しみじみと、残骸となつてなお美しい、一新して心嬉しい建造物が、いかに人生を豊かにするものであるかを強く感じたからである。生活に必要な条件に加えて、技術者のこの精魂こめられた功績に、感謝の念抑え難いものがある。

又一面には、罹災の処置の徒らに年月を経るに反して殖民地的設置のゲンゲン進捗しつつあることに対して、いさゝか、明朗であり得ない心地がするのである。

希くば、社会のあらゆる困難な状況を克服して、建築界が、庶民を導き、新しい文化を築くために努力して頂きたいものである。

(筆者 家事裁判所調停委員)



床の清掃維持方法に就ての
(9月20日建築会館に於ける講演要旨)
プリント御希望者はお申込下さい

ケントク
Kentoku

家屋の艶出

清掃作業も
御月受します

大阪・東區道修町5の29 KKケントク
東京・神田小川町1(三ツビル) 東京ケントク
名古屋・駅前 堀江町2ノ1 KKケントク

社会人として

建築家に望むこと

中井 あい

わたしは建築については全くの素人で、なんら専門の知識をもっていないので、これから申上げることにも問題にならないことかも知れませんが、一市民として思うまゝを卒直に申上げます。

私の希望はまず建築家が民衆とともに生活し、民衆の生活の中にはいつて、民衆が何を苦しみ何を望むかということをとくと体得してほしいのです。現在の悩みは、どんな家に住みたいということより、住むに家がないということです。戦災のため家を失い引揚げて合住いをまだ余儀なくしています。その原因は個人にあるのではなく国家のなせるわざですから、責任は国家が負うべき管です。従つてその対策は国家がすべきなのに、ほんの申訳にちよつぱり住宅を建て、融資をする程度であります。私の希望は、建築家が国民とともに、与論をおこして国家に要求すべきで、これが建築家として国民に仕える任務ではないでしょうか。

第2に知っていたべきたく、また革新していただきたいことは、住宅地の不衛生で不健康なことです。いずれの都市にあつても、たとい腐いものには蓋をしようとして表側をかざりたてゝいますが、所謂不良住宅地区の不衛生きわまりない現実態が存在しているということです。僅か3畳の間に6人も7人も雑居し、下水は不完全で悪臭が鼻につき、空気は濁り日光は射しこまず、屋なお暗い見捨てられた暗い谷間のような、これでも人間の住む家が密集しているのです。この現実を建築家はもと見ておいてになるでしょうか。一般の人々も案外無関心ですが、建築家は誰よりも敏感にこれを痛感して対策をたて、幸いしつかりした組織をもたれる貴協会として中央なり、都道府県地方自治体へ建議するとか、然るべき行動にうつしていただきたいものです。

無論建築家は高い理想をもつて、住みよい家、あるい

は、全民衆が集りつどう公共の建物について、近代都市にふさわしい都市計画など、沢山の夢と理想をもつて、これが達成に努力しておられることゝ思いますが、私はまずこの放つておけない現実を見て、これをどうするかということを考えていただきたいのです。

第3に問題となるのは、われわれ民衆の生活様式のことです。将来の生活様式が将来の建築様式と密接な関係にあり、建築を規定するからであります。今日われわれ働くものにとつては洋服をきるものが常であり、和服では労働に耐えないのであります。家にはこれに適したいわゆる洋間が必要となつてきます。ところが家はそれだけでなく、働くための慰安の場所でもあります。その場合は本人は千年の習慣によつて畳の上に生活しており、またそこにくつろぎを得ているのであつて、この点からいつて、日本間も必要になつてきます。これは単なるノスタルヂアとのみいゝきれないものでしょう。一軒の家にこの2つを兼ね備えることができれば申し分がありませんが、これを単にぜいたくと考えないで、将来の生活を環境が支配するという観点から、もちろん若い人には生活設計とともに住宅にも、間借りやアパート位いの中でよく創意工夫を働かせて、間じきりや押入を利用して明るく働きよく新鮮な雰囲気をかもしだしておりますが、一般にも、建築家が啓蒙する立場から、指導者として、懐古的趣味から新しい将来の生活様式への方向を指示していただきたい。同時にこれと対蹠的なものとして農家があります。これを貴重な民衆として近代生活にふさわしく粹をこらしてよく芸術家は改造して楽しく利用しておりますが、それとは別に、働く農民、殊にいまの状態では家のつくりの面からも非常な非効率から過重労働に陥っている主婦のことを考えた場合、建築家は新しく農民の中へはいつて、その要望に応える住み家の改善を、農民とともにやつていただくことを切望いたします。

第4、これは古い話でしかも直接聞いたのではないからこんな処で申上げていゝかどうかと思いますが、ある現場の現場監督が、いよいよ落成したとき、立派にできたが、自分はこわくてこの内えはいるのはおそろしい気がするといつたそうです。恐らくこの言葉は、建築中に手をぬくという不正の行れることを暗示したことだと思ひます。この事実は請負仕事によくあることで、新聞にも公共建築など、かような原因があつたと災害を説明しているのを見るのであります。かようなことがもし事実であるとすれば、由々しい大事であります。建築家や建築界に反省していただきたいのです。その必要がなければまことに幸です。

第5、これは私のさゝやかな経験であります。今から20年ほど前、自分たちの家を建てたのです。間どりを

合 社 資 金 大 阪 市 北 区 木 幡 町 三 一 番 地 電 話 堀 川 四 一 六 四 番	合 理 的 工 法 ・ 責 任 施 工	防 錆 完 全 ・ 中 空 防 音	耐 震 ・ 耐 火 ・ 軽 量 ・ 堅 牢	採 用 下 さ い ・	は 日 進 式 を 御	を ・ 軽 量 鉄 骨	に は 軽 量 鉄 骨	間 仕 切 ・ 天 井

考え図面をひいて専門家に見せて、大体これでよし、というので建てゝ貰つたのですが、大工さんが良心的だったからでもありませんが、暴風のため瓦やトユを修繕した程度で、家そのものにはちつともくろいがきませんが、たゞ一つ失敗だったことは台所、特に流しが採光通風不完全で、不便なところがあります。ところが、どうもこの欠点は友人なんかの場合を見ても共通のようでもあります。これは専門家なれば前以て充分わかつていることなので、少しの注意と配慮でこれは避けられたと思います。この点に関していまの建築家は十分意をつくしておられることゝ思いますが、一ぺんの規格でよく、そこに温かい心づかいがぜひほしいものです。

第6、新たに建築される場合、建築様式と自然や環境との調和の問題であります。タウトが桂離宮の建築を、口を極めて賞讃していることはご承知の通りであります。その理由は、内部構造が合理的で、通風採光温度等々に細心の注意をはらつて工生的であることや、むだのない簡明の美とともに、周囲の自然との調和が快適な点にありました。私もここをたびたび見て、この点に注意の惜しみなく払われていることに感心しております。ところが最近殊に大小の家が新しく建築されますが、この点にはまことに無頓着のようで、自然や環境との調和を失し、そこに細かい配慮が払われているかどうかを疑うのです。京都でも、北山東山を歩いてよくこれを感じます。これは別に費用のかさむわけではなく、そのかたちや色の上での少しの配慮でできることではないでしょうか。建築家自身のセンスにかゝる問題だと思いますかいかででしょう。

私が巴里えいつてまず予想に反したことは軒並の家が

じみで落ついていたことが巴里の文化が大地の根もとから成長したのを感じ、文化の生成について教えられるところがありました。それと思ひ合せて、日本の今日の建築を見ますと、個々の建築は実に宏壮で立派なものもあるようですが、各自がばらばらで、繁華街でさえ、一かゝり裏は眼もあてられず軒並みだつてチグザグで街の爆音とともに浮れついて落ちつきがありません。

これは要するに混乱な社会の反映であり利己的な日本人の心情のあらわれかも知れませんが、政府に統一した計画性のない証拠だともいえます。建築家にはおそらく理想があり合理的な美の実現に関してお考えがあるでしょうから、強力にこれが実現に積極的に働きかけてこそ建築家としての意味があるのではないのでしょうか。

以上申上げましたことは大小の別はあつても、建築界に希望する私の願いであります。根本は、政府に合理的統一的な、国民の幸せをとという根本方針がぐらついているからだと思います。貧乏な日本では机上の空論だと笑われるかも知れませんが、笑つてすましていることは決して良心的とはいへません。殊に造型芸術家である建築家は創造に終始される民族文化の尖端をゆく、羨ましいお仕事ですが、これが職業となればいまの社会のしぐみの中では、いたるところ厚い壁や深い溝にぶつかる悩みの多いことは、どの仕事の立場からいえる共通の点であります。たゞここで泣き寝入りするかどこまで妥協するか、その仕事の果す役割が誰に仕えているのかをよく反省して、日本民族の独立と平和を堅持することの大義名分を、矛盾の多い現実の中でくちかないよう、これが最後のお願ひであります。

(筆者 京都府教育委員・美術評論家)

関西建材会の歩み

昭和の初め東京建築会館内に建材陳列場が設置されたが、関西では日本建築協会が昭和8年朝日ビル4階に東京と同じ構想の下に、総合建設資料陳列場を開設し凡そ100小間あつた。吾々及先輩も多数出品したが其中の数氏が発起して、別に日本建材協会を創立し梅田新道共同ビル裏曾根崎新地に会館を建設、陳列場をも併置して建材界のため気を吐いたが、戦争勃発のため軍需省の命令の下に国策に順応、統合して社団法人日本建設材料協会を設立し、関西側は樺田藤郎、上山元市、青木友一、故池田実氏が理事となり毎月一回理事会に上京しておつた

関 西 建 材 会

陳列場は東京と大阪朝日ビルとこの3つが建築資料のサンプルケースとして、規則だつた立派な陳列場としては日本代表的なものであつたと記憶する。当時随分遠く海外からの参観者、問合せもあつた。然し惜しいことには戦争のため空襲激烈となり、朝日ビルの方は19年閉鎖曾根崎の日本建材協会は灰燼に帰し、東京も閉鎖された。かくして戦後の慌しい復興時代を迎えたが、関西に於ける建材各業者は4散して焼跡に店舗を有するものは極めて少く誠に寂寥たるものであつた。其頃日本建築協会では前会長片岡先生が亡くなられ、現竹腰先生が其跡をつ

かれ戦後の民主主義に闘う様に定款を改正し、従来建築学を修めた技術家が正会員であつたのを、総合電気管工建材の各部門から個人、会社等、団体会員も正会員として迎えられ、強力な団体として復興建設に尽されることに組織が改められた。其昔吾々業界人はすべて賛助会員であつたが、この改組は各業者間に非常な好感を持たれ吾々も微力ながら大いに協会のために協力することになった。

協会では技術、総合、電気、管工、建材の5部門からなる事となつたが、建材部以外の各部門は夫々協会とか組合とかの母体があるが、吾々の方は母体をなくしたので、当時協会に入会している建材の人々を以て協会の方で建材部として育成することになった。そして建材部門より樺田藤郎、志垣正次、青木友一、野沢幸三郎の諸氏が理事に選ばれ建材同人の集合に努めたが、何分にも交通難、電話も通信も不便な時で連絡容易ならず、集る毎に今日は2人次は3人という状態で、然も其度会する顔触れが異なり、更に協議は遅々として進展せず集合に一方ならぬ苦勞を嘗めた。協会事務所以外、堂島浜通城口さん経営の三輪産業株式会社或は戦災を免れた淡陶株式会社其他会場に苦心、又竹腰会長外協会幹部の方々を特に出席して頂くなどお骨折り願う内、23年頃から漸やく人心も落ちつき社会状態もよくなり、ボツボツと遠近分散の誰れ彼れも帰阪し連絡も大分よくなつた。

かくて26年を迎えメンバーも大分気を吐く体勢となり会合も稍活潑となり前途に曙光も見えたので、竹腰会長外協会幹部の肝入りで建材部門の強化を図ることになり先輩各位とも協議を進めた結果、協会入会者を中心とし建築協会を母体とした関西建材会を設立することに意見の一致を見たので、24年10月8日を期し大阪建設会館で発会式を挙行する事とし、当時判明していた各業者凡そ80社に対し檄を飛ばし出席数38を得た。当日には竹腰会長、井上会長を始め協会役員業会新聞社の臨席を頂き規約の制定役員選挙等を決議した。初代会長として元建築協会陳列場幹事長であつた池田宮彦氏を煩わす事となり幹事制として幹事長青木友一外幹事15名で運営することとなり、事務局は当分協会事務所内に、又事務局も協会事務局の御世話になる事に協会役員にお願いした。斯くて兎も角も建材会の誕生を見たのである。事此処に至るまで指導と絶大な御協力御援助を寄せられた竹腰会長並、当時の役員諸賢に深甚の敬意を表し、この間にあつて終始輪旋と進捗実務に当たられた大和常務理事以下事務局各位に厚く感謝いたす次第である。全く各位の御尽力の責であり吾等の永久に忘れられない処である。以上の経過を辿つて建材会の誕生を見たのであるが当時の会員は凡そ100社であつた。

爾來25年度は専ら会の基礎強固に専念して会員獲得と技術綜合部門との座談会を催し会員相互の向上に努め

た。26年よりは協会とタイアップして会誌には仕様書掲載、建材特集号を発行し、又会員名簿を作製して広く配付等した。又池田会長が辞任されたので顧問にお願いし尙顧問には建築協会々長副会長外数氏にお願いして御指導を受けることにした。後任会長として徳永硝子株式会社専務徳永善四郎氏を迎え、会勢漸やく盛になつたので本会紋章を懸賞募集制定した。一面会員の向上と材質の進歩発達に努めつゝ、相互間の親睦と取引先事情の連絡等を密にした。27年度は専ら母体の建築協会創立35年記念事業遂行に極力後援することになり、卒先して記念事業後援会費の募集に着手、協会各地建築講習会に建材部として多くの材料についての講師を送り大なる成果を挙げた。又建材の正しき使用と施工につき第2回の講習座談会を開催、設計綜合部内の多くの青年技術者凡そ100余名の参加を得意義あらしめた。又協会内に設けられてある建材審査会にも、吾々メンバー中相当審査をパスしつゝあるが、更に多くの商品に優良証明を獲得するように努めつゝある。八月に至り会員凡そ170を得たので27年度版新名簿を発行全国関係方面に拡く配付、吾々建材会の存在を一般に深く認識させた。

石の上にも3年という諺がある通り建材会も漸やく3才になつたので今後の方針としては従来の歩みの外に大方の要望に応えんため、是非建材陳列場を開設することに邁進する。又会員を京阪神で500社に拡大し、中国九州に支郎を設置して会員相互の商品を広く宣伝し、吾々業者の健全な発達を期し、一面資材の向上に努力し、建築界並に社会に一段の貢献したい所存である。更にまた会員相互間の取引上安全かつ円滑に行われる方途を考究中であるし、又資材単価表を整頓会誌に毎号掲載することも実行したい意願である。この目的と吾々の意願を達成するには何と言つても、母体である協会の幹部は素より技術綜合部門及び会員各位の、絶大な御指導と御支援を得て始めて出来るので、切に御引廻しと御鞭撻、御教示をお願いする次第である。

(庶務幹事記)

謹 賀 新 年

昭和28年元旦

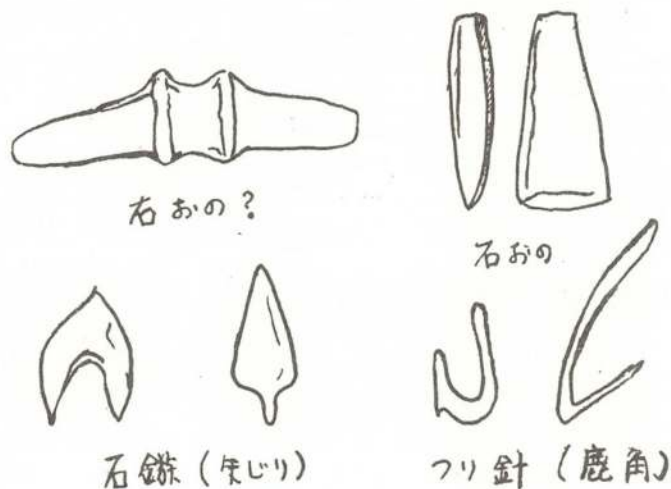
関 西 建 材 会

幹 事 一 同

私たちの 建築史

(1)

林 野 全 孝



第 1 図

歴史で大切なことは、何が起きたか? どうなつたか? ……ということよりも、どうして起きたか? ということだと思います。

むかし、一人の労働する人が (A)。石のおの (A') を持つて木材 (A'') を加工し家建てた。つまり A と A' と A'' が加つて、始めて何かを造られるわけです。しかしながら、こゝに1人の人を囲む、他の人々との関係を忘れては、正しい歴史として成立しません。(…B)

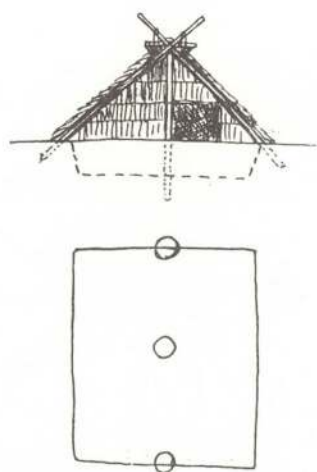
凡ての歴史は、このAとBとの関係により進歩する法則から成り立っているようです。私たちの建築史では、コトウ品屋はやめましょう。そして、いつも、それがどうして造られ、成りし、進歩し、又変化するのを、考えて行きましょう。

目次	第1期	(縄紋、彌生)
	第2期	(古墳より藤原まで)
	第3期	(鎌倉より江戸まで)
	第4期	(明治以降)

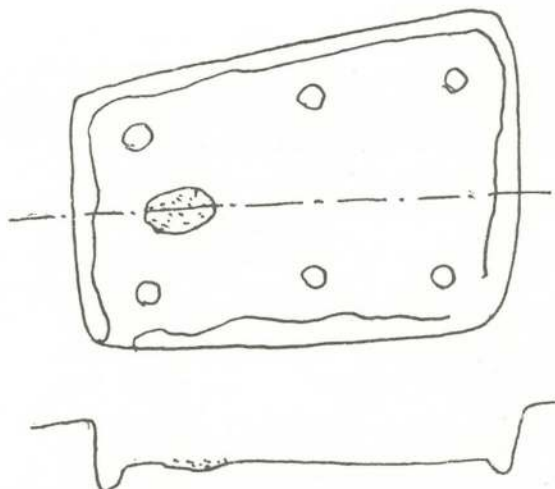
第1期——原始共同社会時代——

小 序

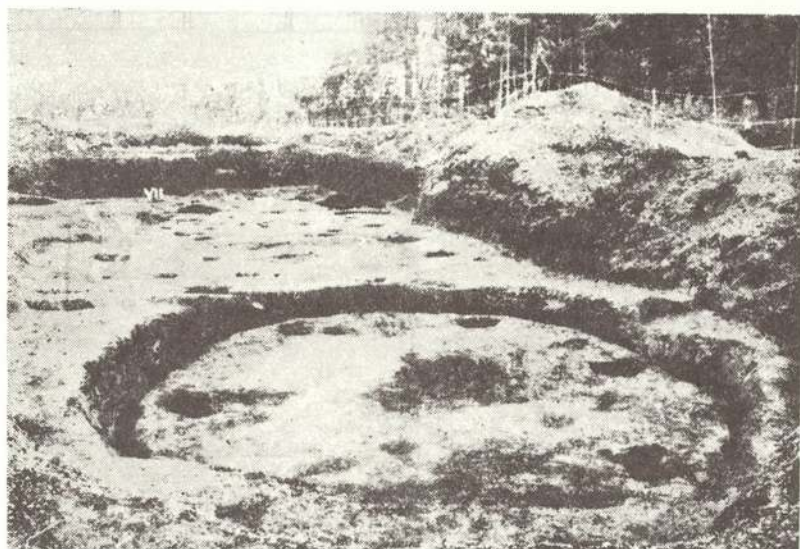
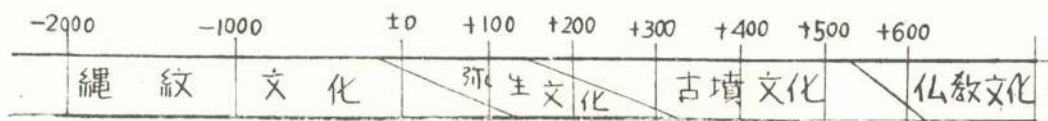
日本で、人類が生活していた一番古い遺跡は、沖積世の地層から出ます。学者の大体に一致した意見では、BC 3000 年くらいとされています。(明石原人にはふれない) それは丁度新石器時代という時代で、世界の考古学からみれば、余程新しい文化でありました。



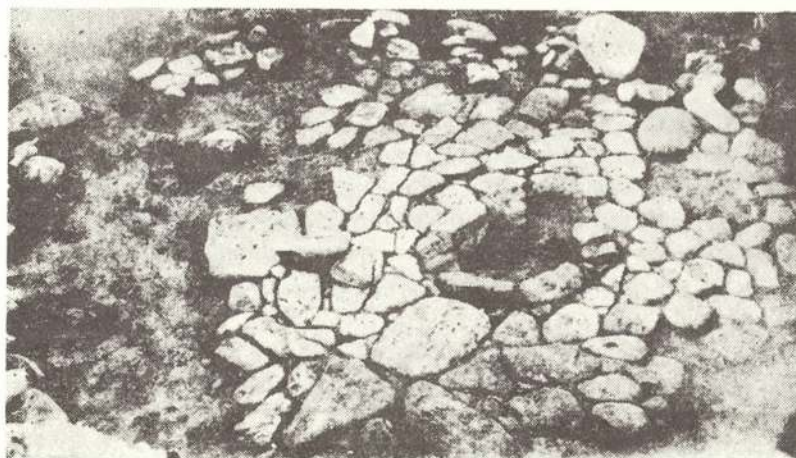
第 2 図



第3図 (広さ約20m²、1m程掘下げられている。)



第4図 址居住式穴堅(一)



第5図一A、址居住式石敷(二)

第5図一B



古事記日本書記の説話は
± AD700 年に書かれたも
のでその上限は、3~4世紀
よりは上らないようです
で前記録時代のことです。

新石器時代は、紀元元年
前後まで続きますが、この
時代は、採取経済——つま
り、鳥やケモノや魚、或は
草や実を取って生活してい
た時代です。(第1図 遺
物参照)

それが、次の彌生式文化
という生産経済に進んで行
きます。農業や牧畜が行わ
れたのは、このときからで
す。

以上縄紋、彌生の両時代
約3000年間は、階級制のな
い、氏族中心のグループか
ら成る人々によつて共同の
生活が営まれていました。

住 居 跡

スペインやフランスでは
古代人が洞穴に住んでいた
あとがありますが、日本で
は、なかつたようです。れ
いめい期の私たちの祖先は
土器や、鳥や魚をとる石や
骨の道具を造り、やがて、
彼等のすまいを建てる技術
を考えました。但し、おそ

らくは北方から技術と共にやつて来たのでしょう。その家の跡は、後にのべま
すが、土から下だけしか遺っていないので、上の屋根などは、どうなつていた
か、はつきりしません。

かつて関野貞博士らが、「天地根元の宮造り」という原始的な家(第2図)
を想定しましたが、これは、中世の工匠が伝えたもので、実際は想像以上に出
ず。このような遺跡は一つも発見されていません。

発見されている一番古い住居跡は、第3図のようなものです。第2図の2の
平面と比べて下さい。柱の位置が全然違います。又タルキのあとが、切妻のよ
うには並んでいません。柱の数は 4~6 本です。又炉は中心をさけているか、
全然別に造られます。(例、茨城県花輪台貝塚、埼玉県福岡村遺蹟)

次にやゝ進んで、第4図のように、平面が円に近くなり、炉は真中に来て、柱が、円く廻るのも出てきます。このあたりから、住居は数コ以上の集団をなし、同じく死体も、そのまゝ、何にも入れずに、並べてうめられます。(例、千葉県姥山貝塚、長野県光石遺跡)

ずつと進むと、深く穴を堀らずに、石をしきつめた床の上に、前と同様の柱が建てられます。径約4~8mで面白いことに、出入口と思われる出張りがあります。(第5図)この頃になると墓地は広くなり、身合墓制となつてきます。死体は、カメのような土器に

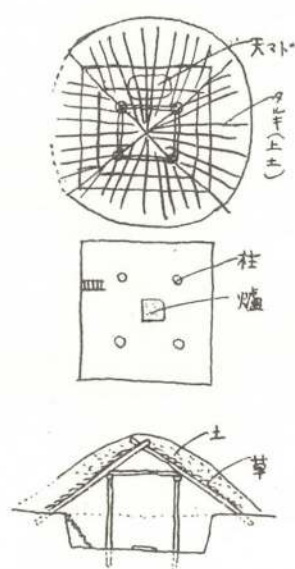
入れられ、次の彌生文化の影響が見え始めます。(例、東京都羽ヶ田遺跡、神奈川県八幡台遺跡)

復原の資料

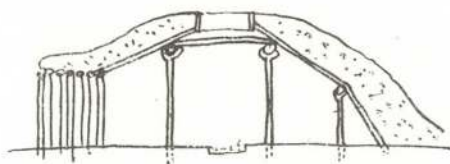
さて、縄紋式時代の住居は、このような平面の上に、どんな屋根がかかつていたのでしょうか。そこで、良く似た住居を、ほかの原始的な所に求めてみます。

かつて鳥居博士によつて発見された冬の家、トイ・チセ(土の家)は、第6図のように方形に掘つた約20m²の平面に、4本の柱を建て——ここまでは、第3図と同じ——その上に図のように、梁と桁をわたして、タルキを八方に、その先が円をかくように並べられています。

さて、このような例をたどつて、村田治郎博士は、千島アイヌ、アリユシヤンのアウト族、カムチャッカ半島



第6図 (山本氏樺太アイヌの住居より推定)



第7図

のコリヤク族、北アメリカ北部のエスキモー族、カナダ北西から合衆国の西部中部地方(Hidaka Indian)の土の家、第7図)或は南米インディアン、黒海北岸のスキタイ族の墓等々におよんで、これと本質的に全く同じものを追求し、次のように結論しています。(建雑774号)

1. 主柱は4本以上竝立、梁と桁あり、
2. タルキは放射状、頂部に4角な煙り出し穴外し又、ソヴィエト領中央アジアの原始ホラズム文化、(BC3500~2500)にも、同様のものが発見され(大串純夫建史研9号)我が縄紋化の住居が、どんなものだったかを、広い視野からますます明かにされています。

(次号に続く)

(筆者 大阪市大理工学部滝沢研究室)

会 務 (十一月分)

記念事業

小豆島見学会 1日~3日

1日午後5時半集合する者松本団長外 20余名曙丸乗船出港神戸港にて竹腰会長外乗船一行 25名2日3時阪出港着たるや旅館で小憩朝食6時借切バスにて寒霞溪に向い大頂望を極め風光佳絶を満喫して11時丸金醤油株式会社に着、同社厚意に依り中食の接待を受け佐伯同社長挨拶竹腰会長謝辞後社員案内で天下の名醤油丸金工場の製造行程施設等見学した、2時観光バスで北岸名所古蹟一巡、5時半旅館雅苑に入り懇親晩餐後一泊、3日午前南岸観光後2時阪出港おとわ丸乗船9時天保山帰着。

之からの住宅展

6日2時於朝日委員会開催最終協議11日より16日迄南海高島屋七階ホールで開会、毎日数千人の入場盛況、協会出展懸賞入選案——等の会所廻り一部を実物大として今西デザインルームに托し製作展示、之に新材料を使用並参考建材出品、羽衣住宅建築設計図、新時代小住宅懸賞入選図案等住宅促進協議会より内外建築事情外参考図写真等、パネル凡20余品、都島校参考出品模型2個

羽衣住宅展示会 7日~16日

工を急いだ28戸建築も略完成したので予定の通り7日10時から現地で開会式挙行した、当時好天に恵れ朝来現場に殺到する者引きもきらず委員側は受付にて来賓を迎え会場一巡後12時同地新東洋大広間に集合、席定るや吉

田住宅展部長は協会側並大阪府側を代表して今日に至りたる経過の概要と将来を希望し各位に感謝を述べ開会挨拶後折詰の祝宴を開いた。

中尾高石町長地元地主関係者夫々祝詞あり、井上福蔵氏出品者の1人として意見開陳と祝意表し最後中野総務部長感謝と閉会挨拶後開場式を閉じた、午後より一般来場群をなし忽ち案内パンフレット出しし係を面喰せる盛況爾來閉会日迄連日500乃至2,000名を突破した。南海鉄道株式会社は毎日人気投票を集めたが16日5時で閉会、翌17日午後大阪建設会館で申込者の抽籤会を開き府住宅課、公庫支所係員、協会側委員、買受希望者等20余名立会公開抽籤別項の通り決定。

表 彰 式

24日2時大阪三越劇場にて開式、舞台金屏風に老松の植木鉢もすがすがしく定刻表彰者委員役員其他参列150余詳細別項の通りである概記表彰部長池田富彦氏司会の下に創立当時よりの在会者代表小笠原祥光氏、多年役員委員代表藪中一良氏事務局代表大和栄衛氏等表彰され、彰状と記念の品を竹腰会長より授与次に多年本会のため協力援助今日の隆盛に寄与された株式会社大丸、大林組社長外各組社長、又総合、電気管工、建材各部門個人代表、各支部代表に夫々感謝状贈呈、次に東畑副会長より竹腰会長に対し協会今日の隆盛は会長の指導にありとて別項の如く感謝の言葉あり終つて小笠原祥光氏は表彰者一同に代り謝辞を述べ閉会

記念大講演会

24日3時~5時20分於三越劇場、日野勝好理事司会の下に開会600余人超満員盛況内容別項の通り竹腰会長開会挨拶、耐火建築について伊東大阪市建築局長、吉田府建築部長欧米建築事情について、武藤清博士、原爆と建築物について夫々スライド使用拍手裡終了竹中式潜涵工法フィルム映写した、尙開会前三越新人落語30分の余興があつた最後に東畑副会長の閉会の辞で散会

祝賀晩餐会

24日6時~8時三越八階グリルに於て120余参加、鈴木末尾祝賀部長司会の下に開始挨拶後竹腰会長来賓其他一同に感謝を述べ開宴デザートに入るや司会者より渡辺節氏京大坂博士各支部長総代松井清之助京都支部長、顧問藪中一良氏鍵中社長、佐藤太氏、菅谷三郎氏、山本潔氏、竜沢真弓氏など別項の如く祝詞と意見開陳、伊東五郎氏は学会長に代り祝詞朗誦谷民蔵氏七十七才の年長者として元氣溢れる声で協会万才三唱乾盃、東畑副会長閉会挨拶後散会、盛況に終つた。

理 事 会

12日2時——於朝日東畑副会長外8名出席定例評議員開催の件、名誉会員推挙の件羽衣住宅文化映画製作の件大阪府建築士会に経費要求の件、軽金属協会講演後援の

件記念事業外諸報告を了した。

建築基準法構造規準講習会

19日20日二日都島工業高等学校講堂で開催学会主催、本会后援、本会事務局応援出場250名別項の通り盛会終了。

建築講習会終了

大阪府建築士会と本会共催の講習会は10月27日より開講中の所11月11日終了当夜中野理事大和常務理事列席、中野理事両会代表閉会の辞を述べ終了。

建材審査委員会

14日、ウォルトン分科会13時菅田、竹内(孝)両委員東亜ペイント工場に到り、同社桑原技術部長より詳細な説明を受け質疑応答の後工場及研究所を視察。16時40分終了。

評 議 員 会

29日2時於朝日河合議長外12名理事者竹腰会長外7名委任状出席32名で開会議案1号細則12条による28年度評議員数決定、第2号議案各誉正会員推挙の件を議決記念事業中間報告を了した。

編 集 委 員 会

15日午後1時中村編集委員長外6名、朝日に集合し羽衣住宅展示会場に赴き観覧し一同、南海高島屋にもどり特別食堂にて休憩後、羽衣住宅に関し座談会を開催、会談終了6時解散す。

関 西 建 材 会 (本会建材部)

11月1. 2日 建築協会主催の記念事業中小豆島見学旅行会に本会よりも多数参加、小豆島の風光を觀賞し、丸金醬油醸造所を見学、有意義な2日を送つた。

11月12日 (於朝日ビル建築協会事務局)

委員会を開催、会長問題其他協議。

11月22日 (於朝日ビル建築協会事務局)

幹事会を開催、建材保証協会設立案及事業企画其他を協議

11月24日 三越に於ける建築協会創立35年記念講演会並祝賀晩餐会に多数参加又同日の表彰式には建材部門より青木友一、山本潔、澤田藤郎、志垣正次以上四氏が表彰された。

11月29日 (於朝日ビル建築協会事務局)

幹事会開催。建材保証協会設立草案検討建材講演会陳列場建設機運促進の件等協議

ウチノミ 小豆島内海町章(マーク)懸賞募集

・募集規定・

- 1、募集要旨 もみぢ色どり本邦唯一のオリーブ実る平和郷小豆島は瀬戸内海の東部にある周囲140軒、人口6万の島であり寒霞溪をはじめ到る処天然の美しい景色に恵まれ、島88ヶ所霊場と共に四季の観光客が絶えない。

内海町は小豆島の東部にあり昭和26年4月1日内海灣を囲む5ヶ町村(西村、草壁町、安田町、苗羽村、坂手村)が円満合併して内海町となり人口2万人、天下に開えた寒霞溪及2千屯級の汽船の出入する良港内海灣を擁した山紫水明の地である。

産業としては全国的に有名な小豆島醤油の大半は本町で産し、その産額は30億円にも達し香川県産業の王座を占めている。飼料等の食料品、たばこ、果樹等の農作物、鯛、鯖、鰯等の水産があり、水道、電気、病院、公民館、学校等の公共施設が充実し、過去に於ても学校、公民館、国民保険等で各大臣賞をはじめ数多くの表彰を受けた。そして文化に産業に観光に非ゆる努力を傾け、明るく進歩する理想の郷土の建設を目指している。

この内海町を表わす簡単明瞭なる町章(マーク)であること。

- 1、応募資格 制限なし。1人何点応募するも可

- 1、応募図案及用紙 はがき大の白紙(画用紙又はケント紙)に黒1色とし、径約6cm(形は自由)のものを画く。裏面に暗号及び簡単な解説を記す。別に同じ暗号を表記した封筒に住所氏名を明記せる紙片を封入し、封書として送付すること。(応募1点毎に1封書とすること)

- 1、送 先 大阪市北区中之島3の3朝日ビル内
日本建築協会 内海町マーク係

- 1、締 切 昭和28年1月末日

- 1、入選発表 本誌昭和28年2月号又は3月号に発表すると共に入選者にはがきで通知する。

- 1、審査員 (50音順敬称略)

佐伯与之吉(内海町長) 竹腰健造(日本建築協会
長) 谷口栄(内海町助役) 中野順次郎(大阪市
教育委員会指導主事日本建築協会理事) 水野正義
(内海町助役) 森田肇一(京大教授工博) 矢野
橋村(日本画家) 渡辺賢一(大阪市立工芸図案科
長)

- 1、賞 金 壹等 壹万円 壹名 貳等 五千元 貳名
佳作 貳千元 五名

- 1、応募作品は一切返戻せず、当選作品の版權は内海町のものとする。

- 1、以上に関する一切の問合せは日本建築協会内海町マーク係へ。(返信料同封のこと)

編 輯 後 記

新年お目出度う御座居ます。顧ると、昨年4月に本年度の編輯委員会が発足した時、我々がいろいろと考えた企図の数分の一も実現できないうちに早や新年号を迎えることになった事は、たとえ経済事情の圧迫という外的条件はあつたにせよ我々の不勉強を示すものとして恥かしく思っている。あと数ヶ月の任期中、何とか奮闘つて会員諸兄の御期待に副いたいものである。

さて、本号は例年通り昨年度を回顧して今後の展望を行うという企画で編集した。予算上の健全財政確立の立場から、本号は図版を1枚も掲載できず貧弱な体裁になったが、本文の方は筆者の顔ぶれと云い、その内容と云い、誠に充実していると自惚れている。ゆつくりと味つて読んでいたゞきたい。昨年末に御約束した「私たちの建築史」もいよいよ連載出来ることになった。この新しい企画を諸兄の御批判、御鞭撻によつて立派なものに育てゝゆきたいと思つている。では次に小泉昇編集委員にペンリレー致します。(谷口尚武編集理事)

建 築 と 社 会 第34輯 第1号

売価1部80円(送料共)

昭和27年12月25日印刷・昭和28年1月1日発行

編集発行人 沖 田 誠 一

発 行 所 社団法人 日本建築協会
大阪市北区中之島3ノ3朝日ビル
電 話 北 浜 ☎ 1334~9 番
振 替 口 座 大 阪 39975 番

大 阪 市 北 区 堂 山 町 6 6

印 刷 者 網 野 栄

大 阪 市 北 区 堂 山 町 6 6

印 刷 所 株式会社研文社 電話鶴崎☎:03

●第三四集 第一号 掲載広告一覽 (掲載順)

岩住鉄工所
日本耐火建材
伊奈製陶
日本ドアーチエック製造
日本金具製作所
協和製作所
河津裝飾
久保商店
浅沼組
新工務所
安藤組
大林組
奥村組
鹿島建設
勝呂組
神崎組
熊谷組
鴻池組
郷組
佐藤工業
清水建設
島藤建設

錢高組
大成建設
大鉄工業
竹中工務店
長建設
鉄道建設興業
戸田組
間組
藤木工務店
藤田組
松村組
三井建設
森本組
ブラオン鑿井水道
日東鑿泉工業所
昭和鑿泉
望月組
佐藤組
岡組
水野建設
長谷川組
大阪土木工業

大嘉熱工業
第一工業
奥小路工業
神谷建造工業
栗山板硝子店
大阪城口研究所
大阪電気商会
桐田商会
齊久工業
三機工業
須賀工業
西原衛生工業所
建材社
栄興商会
三晃商会
火曜会事務所
マンテン
浅海電気産業
近畿電気工事
中央電気工業
立花商会
田村商会
室谷商店
東海電気土木

山本窯業商店
三好板硝子店
田中屋
森井厨機製作所
中外商事
マグナ工業
矢橋大理石商店
ナニワスレート
佐村木商店
三舟窯業
大島応用化学工業
大同鑄造
ケーアールゴム
石井建材
東京鋼板工業
尾北商店
長岡鉄筋コンクリート
東邦商会
水島商店
三和アスファルト化工
高野アスファルト
吉田芳雄商店
関城化学工業所
三高製作所

川岸窯業

前沢商行

鈴木シヤタア商会

福屋工業所

豊国建材店

昭和鋼機

黒川化学工業所

林塗装店

田島応用化工

三星タイル会

井上工材

大建工業

岩元工業

明正社

日本サツシュ

ナニワ瓦

谷山鉄工所

福島産建工業

山本建材社

理研サツシュ

大阪建材工業

和か山スレート

住江織物

藤森工業

亀井

不二製作所

打越建物洗装店

ライト青写真工業

大仏組

玉置産業

サンエナメル工業

木下謹三商店

坂本商会

杉田組協栄

田中風呂製作所

シフカー工業所

浪速建材工業

大阪窯業セメント

清光社

油脂化工社

日本セメント防水剤製造所

内外土木建材社

朝日石綿工業

荏原製作所